

平成25年度

# 名古屋市美術館年報

2 0 1 3

# 目次

序	1
沿革	2
展覧会事業	3
1 常設展	3
(1)名品コレクション展	4
(2)常設企画展	11
2 特別展	18
教育普及事業	28
1 教育プログラム	28
1. 一般成人対象の事業	29
(1)講演会・解説会	29
(2)コレクション解析学	30
(3)コンサート	31
(4)その他	32
2. 子ども対象の事業	35
(1)学校休業日の体験活動の推進	35
(2)夏休みこどもの美術館	36
(3)芸術と科学の杜	37
3. 学校対象事業	38
(1)ボランティアによる学校団体向け ガイドトークの実績	38
(2)アートカード貸出実績	39
(3)出前アート体験	40
(4)就業・職業・職場体験及び 職場訪問受け入れ	42
(5)教員対象の講座	42
2 ボランティア	43
(1)ボランティア登録者	43
(2)定例会	43
(3)ガイド活動	44
(4)サポート活動	45
(5)その他	45
3 協力会	47
4 図書室	47
5 出版	48
資料	49
1 収集	49
(1)購入	50
(2)受贈	50
①資料	50
②特別資料	55
(3)資料収集状況一覧	56
2 保存・修復	57
3 貸出	58
入館者一覧	60
組織・予算	61
1 組織図	61
2 美術館協議会	61
(1)名古屋市美術館協議会委員	61
(2)名古屋市美術館協議会開催状況	61
3 職員	61
4 運営予算	61



# 序

## PREFACE

名古屋市美術館の平成25年度の活動をまとめた年報を発行いたします。

平成25年度は開館以来25周年の節目の年になりました。あっという間の25年であり、また様々な出来事があった25年間でした。開館以来の入場者数は1100万人を超え、ゼロから始まった作品収集も5500点を数えるまでに成長しました。一方で運営予算は年々縮小傾向にあり、特に作品の収集に関しては大変厳しい状況が続いています。これは勿論当館だけでなく、日本の美術館・博物館すべてが直面している問題ですが、美術館本来の目的を見失うことなく、変えるべき点と継続すべき点を慎重に考慮しながら、今後とも着実に前に進んでいきたいと考えております。市民の皆様方には、美術館活動への変わらぬご理解とご支援を頂戴したいと思います。

作品の収集に関しては厳しい状況が続く中、新たに55点を収蔵品に加えることができました。ティナ・モドッティの写真作品はすでに19点を収蔵していましたが、今回新たに2点の作品が加わりました。いずれもモドッティの代表的なイメージであり、また1点は貴重なヴィンテージ・プリントでもあり、当館のメキシコ写真コレクションが一層充実することになりました。寄贈作品については、鬼頭鍋三郎や島田章三・鮎子夫妻といった、地元の重要作家について貴重な作品の寄贈があった他、当館のコレクションの特徴の一つであるメキシコ関係の現代美術がまとまって寄贈されました。さらに常設企画展で開催した写真展の作家から、出品作品を含む写真作品をまとめてご寄贈いただき、地元のコレクターからは、現代美術の多彩な作品を一括してご寄贈いただくなど、今年度も多くの方々のご厚意によりコレクションの一層の充実を図ることができました。

特別展については、開館25周年を記念する「上村松園展」にはじまり、幅広い年代の方々にお楽しみいただいた「はじめての美術 絵本原画の世界2013」を6月から7月にかけて開催。夏休みから10月末にかけては第二回目となった「あいちトリエンナーレ2013」を開催し、さらに11月から12月にかけて、地元出身作家の一人である赤瀬川原平を含む前衛グループ「ハイレッド・センター」の活動の全貌を紹介する展覧会を初めて開催しました。そして年度最後には、所蔵品を中心に地元作家の協力を得て展示にも工夫を凝らし、家族連れで楽しんでいただく「親子で楽しむアートの世界 遠まわりの旅」と、多彩な展覧会を開催いたしました。特に年度最後の「親子で楽しむアートの世界 遠まわりの旅」では、より多くの子どもたちに展覧会に触れていただきたいとの思いから、入場料を無料にいたしました。この試みは以後のすべての特別展で継続していきたいと考えており、今後できるだけ多くの子どもたちに展覧会を楽しんでもらいたいと思います。

常設展は例年通り、収集方針ごとに小テーマを設け、それぞれの作品の特徴を浮かび上がらせるように工夫してご覧いただきました。美術館の魅力の基本はコレクションであり、それをご紹介する常設展こそが活動の中心、という方針をさらに徹底するべく、作品の魅力をより分かりやすくお伝えする常設展を目指したいと思います。

教育普及活動については、例年通り講演会や講座、常設展、特別展でのギャラリートーク、「キッズの日」や「夏休み子どもの美術館」といった子どもたち向けの事業、出前授業、教師のための美術館利用研修など、精力的に展開しました。平成24年度から開催している白川公園一帯を利用して開催する「アート大会」は2回目となりましたが、今年も好天に恵まれ、大勢の家族連れの皆さんが作品の制作やゲームなどに興じ、賑やかな中にも大変楽しい一日となりました。また、多彩な美術館活動を支えていただいているボランティアの皆さんは8期をお迎えすることになり、100名を超える方々が精力的に活動していただいています。

開館以来四半世紀を迎え、様々な活動もすっかり定着してきました。これまで積み上げてきた活動の一つ一つを大切にしながら、一方で新しい試みにも挑戦しつつ、新たな歴史を築いていきたいと考えております。どうぞ、これまで以上のご支援とご協力をいただきますようお願いいたします。

2014年8月

名古屋市美術館

# 沿革

## HISTORY

- 昭和52年12月 「名古屋市基本構想」策定、同構想において美術館建設をめざす
- 昭和56年1月 市長、年頭記者会見において、美術館の具体化検討を発表
- 12月 市会、美術館建設のための調査費を議決
- 昭和57年2月 美術館調査委員会（委員長 豊岡益人愛知県立芸術大学学長）設置、美術館のあり方について諮問
- 4月 「名古屋市市民文化振興のための基金に関する条例」制定
- 昭和58年1月 美術館調査委員会「名古屋市美術館（仮称）基本構想について」答申
- 7月 美術館建設委員会（委員長 伊藤延男東京国立文化財研究所所長）設置
- 8月 美術館基本設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）
- 10月 美術館資料収集審査委員会設置、資料の収集を開始
- 昭和59年3月 建築基本設計完了
- 9月 美術館実施設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）
- 昭和60年1月 建築実施設計完了
- 2月 名古屋市文化顧問（安達健二 東京国立近代美術館長）委嘱
- 7月 美術館建設工事着手
- 昭和61年11月 「名古屋市美術館（仮称）収集作品展」を市博物館で開催
- 昭和62年4月 美術館開館準備顧問（谷隆夫 元名古屋市助役）委嘱
- 7月 美術館本体工事完成
- 10月 外構工事完成
- 昭和63年3月 「名古屋市美術館条例」制定
- 4月 美術館顧問（河北倫明氏）委嘱
- 4月 開館（館長 谷隆夫）
- 平成元年9月 博物館登録
- 平成5年9月 南側エレベーターの設置
- 平成7年6月 美術館長（劔持一郎 元名古屋市教育長）委嘱  
美術館顧問（谷隆夫 元館長）委嘱
- 平成10年10月 美術館参与（馬場駿吉 元名古屋市立大学教授）委嘱
- 平成11年6月 美術館長（小林龍郎 元名古屋市総務局長）委嘱
- 平成14年6月 美術館長（宮澤明倫 元名古屋市教育長）委嘱
- 平成18年6月 美術館長（渡辺豊彦 元名古屋市選挙管理委員会事務局長）委嘱  
美術館参与（石黒鏘二 名古屋造形芸術大学名誉教授）委嘱
- 平成21年5月 美術館長（松永恒裕 元名古屋市総務局長）委嘱
- 6月 開館以来1,000万人目の入館者を迎える

平成25年度の常設展（名品コレクション展）は、例年のように、名古屋市美術館のコレクションを多角的に紹介することを目的として、総計3回の展示を各2～3名の学芸員がチームとなって、それぞれが独自のテーマを設定して開催する形式の5年目になりました。

名品コレクション展Ⅰでは、「エコール・ド・パリ」のコーナーにおいて、シャガールの《寓話》を前期と後期に渡って、全作品を解説付きで紹介しました。「メキシコ・ルネサンス」では、カーロやイスキエルドといったシュルレアリスムの文脈から見ることのできる作品を特集しました。「現代の美術」では、「反復」や「影とシルエット」と題して、現代美術家の表現方法のコンセプトに関連した展示を行ないました。

名品コレクション展Ⅱは、「あいちトリエンナーレ2013」の会期と重複していることから、全国からの来館者に向けて、名古屋市美術館のコレクションの代表作を見てもらえるように、「エコール・ド・パリ」と「メキシコ・ルネサンス」では、コレクションの出発点となった二人の作家（荻須高德と北川民次）を中心として、代表作の代表作を一堂に展示しました。また、「現代の美術」のコーナーでは、トリエンナーレのテーマと同じ「揺れる大地」というタイトルで、コレクションから選定した作品（荒川修作、岡本太郎、河原温、タマヨ、ポサダ、サビエ、フランタなど）で構成しました。同時に、特集「村上友晴《十字架の道》」も開催しました。

名品コレクション展Ⅲでは、「エコール・ド・パリ」の

代表である「モディリアアーニと友人たち」の作品群と「メキシコ・ルネサンス」の代表である「タマヨの版画」を紹介しました。これに併せて、前期には特集「没後100年記念 ホセ・グアダルルーペ・ポサダ」、後期には常設企画展「独立と革命：メキシコ現代版画」を開催しました。メキシコの版画の出発点と現代を見ることのできる企画になりました。「現代の美術」では、前期には、特別展「ハイレッド・センター：『直接行動』の軌跡」の開催に併せて、名古屋における1960年代の「反芸術とパフォーマンス」を紹介しました。後期には、河原温の“Today”シリーズとの関連による現代美術の「時間の表現」を特集しました。

「郷土の美術」では、名品コレクション展Ⅰでは、「美しき日本の風景」と題した風景画と「作品≡ライフ」と題した女性作家の作品の特集しました。Ⅱでは、トリエンナーレのために名古屋に来た人たちに、暑い暑い「名古屋の夏」を実感してもらえるような作品を揃えました。Ⅲでは、「静物画を描くということ」と「花鳥画の世界」という二つのジャンル（静物画と花鳥画）に分類できる郷土作家の作品を紹介しました。

常設企画展としては、名古屋の現代美術を紹介する「ポジション」展の常設企画展版である「ポジション2013 水野誠司・初美」展を開催しました。北欧フィンランドで写真を学んだ夫妻の共同制作による新作「フィンランド・ポートフォリオ」を発表しました。伝統的な写真技法（パラジウムプリントやサノアタイプ）による作品には、ノスタルジックな安らぎの雰囲気が漂う小さな世界を見ることができました。

# (1)名品コレクション展

Selected Works from the Collection of  
Nagoya City Art Museum

## 名品コレクション展 I

会期：2013年3月16日(土)～7月21日(日)

常設展示室 1・2

\*：寄託作品

i：前期3月16日(土)～6月2日(日)

ii：後期6月15日(土)～7月21日(日)

### 出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)	
<b>コレクション解析学</b>						
1	エドワード・ルッシェ	20世紀	1988	油彩・キャンヴァス	150.0×368.0	i
2	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画：統一戦線	c.1928	ゼラチンシルバープリント・紙	24.1×18.9	ii
3	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画：抗議	1928	ゼラチンシルバープリント・紙	24.1×18.6	ii
4	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画：エミリアーノ・サパタ(部分)	c.1928	ゼラチンシルバープリント・紙	25.3×20.3	ii
5	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画：労働へ	c.1928	ゼラチンシルバープリント・紙	21.0×14.5	ii
6	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画：労働組合	c.1928	ゼラチンシルバープリント・紙	25.3×20.3	ii
7	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画：ABCの学習	c.1928	ゼラチンシルバープリント・紙	25.3×20.2	ii
8	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画：脱穀	c.1928	ゼラチンシルバープリント・紙	21.0×14.5	ii
9	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画：ABCの学習／脱穀	c.1928	ゼラチンシルバープリント・紙	25.2×20.1	ii
10	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画： 世界のすべての富は大地からもたらされる	1928	ゼラチンシルバープリント・紙	23.4×19.2	ii
11	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画：雨(部分)	1928	ゼラチンシルバープリント・紙	25.3×20.2	ii
12	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画：トラクター	c.1928	ゼラチンシルバープリント・紙	25.3×20.2	ii
13	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画：眠り－貧者の夜	c.1928	ゼラチンシルバープリント・紙	25.3×20.3	ii
14	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画：大地の果実(部分)	1928	ゼラチンシルバープリント・紙	20.2×25.3	ii
15	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画： 乱痴気騒ぎ－金持ちの夜(部分)	c.1928	ゼラチンシルバープリント・紙	20.3×25.3	ii
16	ティナ・モドッティ	メキシコ文部省壁画：保証－資本主義の残骸	c.1928	ゼラチンシルバープリント・紙	23.8×18.8	ii
17	特別資料	メキシカン・フォークウェイズ 1926年10-11月号No. 9	1926	雑誌	23.0×16.2	ii
18	特別資料	メキシカン・フォークウェイズ 1927年2月号 vol. 3	1927	雑誌	28.3×20.8	ii
19	特別資料	メキシカン・フォークウェイズ 1928年4月号 vol. 4	1928	雑誌	28.3×20.8	ii
20	特別資料	メキシカン・フォークウェイズ 1930年4月号 vol. 6	1930	雑誌	28.3×20.8	ii

### エコール・ド・パリ：女の肖像／シャガール《ラフォンテーヌの『寓話』》

1	コンスタンティン・ブランクーシ	うぶごえ	1917(1984)	ブロンズ	17.0×26.0×18.0	i・ii
2	マルク・シャガール	二重肖像	1924	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0	i・ii
3	キスリング	マルセル・シャンタルの肖像	1935	油彩・キャンヴァス	116.0×81.0	i・ii
4	マリー・ローランサン	サーカスにて	c.1913	油彩・キャンヴァス	116.5×89.0	i・ii
5	マリー・ローランサン	横たわる裸婦	1908	油彩・キャンヴァス	38.0×46.4	i・ii
6	アメデオ・モディリアーニ	立てる裸婦(カリアティードのための習作)	c.1911-12	油彩・キャンヴァス	83.0×47.8	i・ii
7	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	c.1918	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4	i・ii
8	ジュール・バスキン	クララとジュヌヴィエーヴ	1925	油彩・キャンヴァス	92.0×73.0	i・ii
9	ジュール・バスキン	横たわるエリアヌ	1929	油彩・キャンヴァス	73.2×92.6	i・ii
10	田中保	ソリタ・ソラノの肖像	1923	油彩・キャンヴァス	103.0×73.5	i・ii
11	キース・ヴァン・ドンゲン	コルセットの女	1908	油彩・キャンヴァス	65.0×50.0	i・ii
12	オシップ・ザツキン	扇を持つ女	1923	ブロンズ	84.0×35.0×31.0	i・ii
13	マルク・シャガール	寓話	1927-30(1952)	エッチング・紙、100点一組	各38.5×30.0	2週間ごとに 入れ替えて全 作品紹介

### メキシコ・ルネサンス：メキシコのシュルレアリスム

1	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・ブリキ	14.9×11.0	i・ii
2	マリア・イスキエルド	旅人の肖像(アンリ・ド・シャティヨンの肖像)	c.1940	油彩・キャンヴァス	160.0×190.0	i・ii
3	マリア・イスキエルド	生きている静物	1947	油彩・キャンヴァス	80.3×99.7	i・ii



4	レオノーラ・キャリントン	ハゲワシ	2010	ブロンズ	15.2×26.0×11.0	i・ii
5	マニュエル・アルバレス・ブラボ	木馬	1928	ゼラチンシルバープリント・紙	35.6×27.9	i・ii
6	マニュエル・アルバレス・ブラボ	眼の寓話	1931	ゼラチンシルバープリント・紙	25.4×20.3	i・ii
7	マニュエル・アルバレス・ブラボ	不在の肖像	1945(1987)	ゼラチンシルバープリント・紙	35.6×27.9	i・ii
8	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏(三層)、ワイヤラス(金網)、合板	161.9×201.3	i・ii
9	ディエゴ・リベラ	ホコの葬列		油彩・キャンヴァス	59.7×69.0	i・ii
10	ホセ・クレメンテ・オロスコ	白い神々	c.1947	油彩・メゾナイト	71.0×91.5	i・ii
11	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9	i・ii
12	ダビッド・アルファロ・シケイロス	奴隷	1961	アクリル・板	86.4×64.8	i・ii
13	ルフィーノ・タマヨ	黒人の仮面(カーニバル)	1939	テンペラ・リンネル	44.8×60.4	i・ii
14	ルフィーノ・タマヨ	夜の踊り子たち	1948	油彩・キャンヴァス	96.7×76.4	i・ii

## 現代の美術(前期):草間彌生と反復

1	浅野弥衛	無題	1984	鉛筆・紙 3点1組	各111.5×79.2	i
2	草間彌生	ピンク・ボート	1992	ファイバーワーク、ボート	90.0×350.0×180.0	i
3	草間彌生	ドッツ・オブセッション 水玉で幸福いっぱい ([iida] Art Edition モデル)	2009	携帯電話、充電器など	14.1×17.6×14.3 edition:049/100	i
4	草間彌生	私の犬のリンリン ([iida] Art Edition モデル)	2009	携帯電話、充電器など	27.0×9.5×20.3 edition:056/100	i
5	草間彌生	宇宙へ行くときのハンドバッグ ([iida] Art Edition モデル)	2009	携帯電話、充電器など	11.0×5.0×1.8	i
* 6	草間彌生	インフィニティ・ネット	1959	油彩・キャンヴァス	45.4×38.1	i
7	桑山忠明	無題	1973	アクリル・キャンヴァス	直径225cm	i
8	桑山忠祐	#D141	1973	アクリル・キャンヴァス	150.0×150.0	i
9	李禹煥	コレスポンダンス	1992	油彩・キャンヴァス	227.0×182.0	i
* 10	アルマン	<怒り>シリーズ	1980	叩き潰したバイオリン、版画	55.8×40.0×40.0	i
11	マグダレーナ・アバカノヴィッチ	顔1	2004	墨・グアッシュ・紙	42.0×30.0	i
12	マグダレーナ・アバカノヴィッチ	顔2	2004	墨・グアッシュ・紙	42.0×30.0	i
13	マグダレーナ・アバカノヴィッチ	顔3	2004	墨・グアッシュ・紙	42.0×30.0	i
14	マグダレーナ・アバカノヴィッチ	顔4	2004	墨・グアッシュ・紙	42.0×30.0	i
15	マグダレーナ・アバカノヴィッチ	顔5	2004	墨・グアッシュ・紙	42.0×30.0	i
16	マグダレーナ・アバカノヴィッチ	顔6	2004	墨・グアッシュ・紙	42.0×30.0	i
17	ジョナサン・ポロフスキー	ベルリンの夢	1986	リトグラフ・紙、アクリル	85.4×108.6	i
18	ジョナサン・ポロフスキー	I dream A dog Walking on the tight rope	1980	ビデオ	60min	i
19	アンゼルム・キーファー	シベリアの女王	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	i
20	アグネス・マーチン	無題 No. 3	1992	アクリル・キャンヴァス	183.0×183.0	i
21	リサ・ミルロイ	皿	1992	油彩・キャンヴァス	188.0×243.8	i
22	ショーン・スカリー	ボディ	1993	油彩・キャンヴァス	213.4×243.8	i
23	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	i
24	クロード・ヴィアラ	無題	1979	アクリル・テント	455.0×560.0	i

## 現代の美術(後期):影とシルエット

1	荒川 修作	Untitled	1964	油彩、鉛筆、フェルトペン・キャンヴァス、コラージュ	162.1×130.3	ii
2	荒川 修作	小さな細部としてのデュシャンの大ガラスとともにある図式	1964	アッサンブラージュ	230.0×168.0×57.0	ii
3	河原温	APR. 5, 1987	1987	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0	ii
4	河原温	APR. 6, 1987	1987	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0	ii
5	河原温	APR. 7, 1987	1987	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0	ii
6	河原温	APR. 8, 1987	1987	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0	ii
7	河原温	APR. 9, 1987	1987	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0	ii
8	河原温	APR. 10, 1987	1987	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0	ii
9	河原温	APR. 11, 1987	1987	アクリル・キャンヴァス	25.5×33.0	ii
10	桑山忠明	無題	1978-79	アクリル・キャンヴァス	243.8×243.8	ii
11	桑山忠明	無題	1978-79	アクリル・キャンヴァス	243.8×243.8	ii
* 12	杉本博司	Orpheum, California	1977	ゼラチンシルバープリント	42.2×54.4	ii
13	高松次郎	「イメージの空間:名古屋駅の人々」 のための構想ドローイング	1989	鉛筆・紙、18点1組	No. 1-2;各26.4×73.1 No. 3-18;各54.7×79.2	ii
14	藤本由紀夫	THE SEPARATED	2005	ミクストメディア	102.0×70.0×5.0	ii
15	バリー・フラナガン	三日月と釣鐘の上を跳ぶ野ウサギ	1983	ブロンズ	121.9×94.0×61.0	ii
* 19	アニッシュ・カプーア	Void No. 3	1989	顔料・ファイバーグラス	121.9×121.9×91.4	ii
20	アンゼルム・キーファー	シベリアの女王	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	ii
* 21	ロイ・リキテンスタイン	2つの絵画:緑色のランプ(絵画シリーズ)	1984	木版、リトグラフ、スクリーンプリント、コラージュ	90.5×127.0	ii



*22	ロイ・リキテンスタイン	キャンバスの上に絵画(絵画シリーズ)	1984	木版、リトグラフ、スクリーンプリント、コラージュ	78.4×65.9	ii
*23	ロイ・リキテンスタイン	2つの絵画:ビーチボール(絵画シリーズ)	1984	木版、リトグラフ、スクリーンプリント	94.0×91.0	ii
*24	ロイ・リキテンスタイン	青と黄色の壁の上の絵画(絵画シリーズ)	1984	木版、リトグラフ	112.1×72.4	ii
*25	ロイ・リキテンスタイン	黄色の筆触	1985	フォトエッチング	59.5×32.6	ii
26	アグネス・マーチン	無題No. 3	1992	アクリル・キャンヴァス	183.0×183.0	ii
27	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	ii

## 郷土の美術(前期):美しき日本の風景

1	平川敏夫	樹界	1975	紙本着彩	屏風(四曲一隻)	166.5×337.6	i
2	平松礼二	路一金色の刻	1992	紙本着彩	金箔 屏風(四曲一隻)	165.0×337.2	i
3	川合玉堂	秋嶺白雲	c. 1940	絹本着彩	軸	78.8×99.4	i
4	石川英鳳	白雪皚々	1933	絹本着彩		168.0×102.0	i
5	平岩三陽	山は粧ふ	1937	紙本着彩	屏風(二曲一隻)	167.5×170.5	i
6	横山葩生	高原の秋	1923	紙本着彩		64.5×84.0	i
7	佐藤空鳴	晩春風景(分譲地風景)	1929	絹本着彩	軸	84.5×101.0	i
8	吉田博	富嶽図	1920	絹本墨画	淡彩 軸	126.4×51.1	i
9	前田青邨	帰獵	[1910-20's]	絹本着彩	軸	100.0×50.0	i

## 郷土の美術(後期):作品ニライフ -郷土の女性作家-

1	芥川(間所)紗織	女	1954	染色・木綿		90.8×65.2	ii
2	芥川(間所)紗織	神話より	1957	染色・木綿		162.3×130.3	ii
3	片岡球子	潮	1958	紙本着彩	屏風(二曲一双)	171.0×177.5	ii
4	岸本清子	エロチカル・ガールズ(チューリップ)	1983	アクリル・合板		136.4×91.3	ii
5	岸本清子	エロチカル・ガールズ(菊)	1983	アクリル・合板		136.9×91.3	ii
6	岸本清子	エロチカル・ガールズ(クリスマス・ローズ)	1983	アクリル・合板		136.4×91.0	ii
*7	坂本夏子	Octopus Restaurant	2010	油彩・キャンヴァス		227.0×182.0	ii
8	高畑郁子	作品A	1959	紙本着彩		92.1×92.3	ii
9	田中君枝	化粧	1940	油彩・キャンヴァス		91.0×65.0	ii
10	丹羽和子	ヒュブノスのようなDevil	1977	油彩・キャンヴァス		72.7×72.7	ii
11	丹羽和子	人・さまざま	1987	油彩、コラージュ・キャンヴァス		194.0×131.0	ii
12	三岸節子	室内	1942	油彩・キャンヴァス		91.0×60.8	ii
13	三岸節子	雷がくる	1979	油彩・キャンヴァス		89.0×116.3	ii
14	三岸節子	花咲くブルゴーニュ	1977	油彩・キャンヴァス		80.8×100.3	ii

\* 常設展示室3 (2013年3月16日～4月14日)

## 特集:再生

1	村上友晴	マリア礼拝堂	2009	油彩・キャンバス、鉄筆		91.0×72.5
2	イサム・ノグチ	死すべきもの	1959-62	ブロンズ		190.0×51.0×48.0



会場風景

# 名品コレクション展Ⅱ

会期：2013年8月10日(土)～10月27日(日)

常設展示室1・2

## 出品作品

\*：寄託作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)
-----	-----	-----	-----	-------	---------

### コレクション解析学

1	ベン・シャーン	リディツェ	1942	テンペラ・紙	130.8×99.5
---	---------	-------	------	--------	------------

### エコール・ド・パリ：荻須高德とエコール・ド・パリの日本人作家たち

1	海老原喜之助	風景	1927	油彩・キャンヴァス	81.4×100.3
2	岡鹿之助	魚	1927	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0
*3	荻須高德	エドガー・キネ通りの市場	1929	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0
4	荻須高德	洗濯場、オーヴェルヴィリエ	1958-59	油彩・キャンヴァス	116.3×89.2
5	田中保	ソリタ・ソラノの肖像	1923	油彩・キャンヴァス	103.0×73.5
6	藤田嗣治	風景	1918	油彩・キャンヴァス	46.2×38.0
7	マルク・シャガール	二重肖像	1924	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0
8	キスリング	マルセル・シャンタルの肖像	1935	油彩・キャンヴァス	116.0×81.0
9	マリー・ローランサン	サーカスにて	c.1913	油彩・キャンヴァス	116.5×89.0
10	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	c.1918	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4
11	ジュール・パスキン	クララとジュヌヴィエーヴ	1925	油彩・キャンヴァス	92.0×73.0
12	ハイム・スーチン	セレの風景	c.1922	油彩・キャンヴァス	79.8×87.2
13	モーリス・ユトリロ	ラバン・アジール	c.1913	油彩・キャンヴァス	50.0×65.0

### メキシコ・ルネサンス：北川民次とメキシコ・ルネサンスの作家たち

1	北川民次	トラルバム霊園のお祭り	1930	油彩・キャンヴァス	99.5×89.8
2	藤田嗣治	家族の肖像	1932	鉛筆、パステル・紙	86.5×67.2
3	マリア・イスキエルド	生きている静物	1947	油彩・キャンヴァス	80.3×99.7
4	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・ブリキ	14.9×11.0
5	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9
6	ディエゴ・リベラ	スペイン風景(トレド)	1913	油彩・キャンヴァス	89.0×110.0
7	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏(三層)、ワイヤラス(金網)、合板	161.9×201.3
8	ダビッド・アルファロ・シケイロス	婦人像	1934	油彩・メゾナイト	152.7×78.7
9	ダビッド・アルファロ・シケイロス	母と子	1962	デュコ・メゾナイト	80.2×61.2
10	ルフィーノ・タマヨ	乗り遅れた乗客	1946	油彩・キャンヴァス	97.2×84.0
11	ルフィーノ・タマヨ	夜の踊り子たち	1948	油彩・キャンヴァス	96.7×76.4

### 現代の美術：揺れる大地

1	荒川修作	「何」を繰り返すこと。置き換えること。大地、いや、しかしそれは多くの瞬間的なもの。変わることなく不連続な世界へ立ち返ること。この過程が問題だ。	1987-88	アクリル、鉛筆・キャンヴァス(3パネル)、ミクストメディア(8ボード)	349.7×685.8 245.0×490.0
2	岡本太郎	明日の神話	1968	油彩・キャンヴァス	132.7×728.9
3	河原温	"I Got Up"シリーズ	1976	スタンプ、絵葉書(20枚)	各9.0×14.0
4	喜多村麦子	秋暮—京都淀川漁夫—	1924	紙本墨画	110.0×120.0
5	北脇昇	春に合掌す	1942	油彩・キャンヴァス	72.5×91.0
6	内藤礼	ナーメンロス/リヒト	1995	色鉛筆・紙	42.0×30.5
7	内藤礼	ナーメンロス/リヒト	1995	色鉛筆・紙	42.0×30.5
8	アンゼラム・キーファー	シベリアの女王	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5
9	トニー・クラッグ	住处のある静かな場所	1984	木	155.0×105.0×60.0
10	ラインハルト・サビエ	赤い星の夜	1996	クレヨン、ガッシュ・紙	104.3×96.0
11	ラインハルト・サビエ	狂気に追いつめられて	1996	クレヨン、ガッシュ・紙	119.5×95.5
12	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7
13	ルフィーノ・タマヨ	苦悶する人	1949	油彩・キャンヴァス	100.0×80.0

14	ジョン・ディアマン	風景	1857	油彩・板	22.6×30.4
15	バリー・フラナガン	三日月と釣鐘の上を跳ぶ野ウサギ	1983	ブロンズ	121.9×94.0×61.0
16	フランタ	記憶のためにー証人	1995	油彩・キャンヴァス	200.0×670.0
17	ホセ・ガダルーベ・ボサダ	終末は近い	1894	活字合金版エングレーヴィング	40.0×30.0
18	ホセ・ガダルーベ・ボサダ	愛の巨大墓地	n.d.	活字合金版エングレーヴィング	40.0×30.0

## 郷土の美術:名古屋の夏

1	大野椒嵩	羯羅俱熾	1982	紙本着彩	96.5×80.0
2	河原温	1981年8月19日～“Today”シリーズ	1981	アクリル・キャンヴァス	20.5×25.5
3	嶋谷自然	湖心	1978	紙本着彩	227.3×163.9
4	堀尾実	作品B	1948	紙本着彩	70.5×56.0
5	三岸好太郎	海と射光	1934	油彩・キャンヴァス	72.8×60.5
6	水野正一	少女	1921	油彩・キャンヴァス	73.0×53.0
7	宮脇晴	夜の自画像	1919	油彩・キャンヴァス	61.0×45.7
8	八島正明	夏の日	1985	油彩・キャンヴァス	112.1×162.1
9	山田秋衛	竜宮城図屏風	c.1930	絹本着彩、六曲一隻屏風	139.0×293.0
10	山田光春	夕やけ	1950	油彩・キャンヴァス	116.8×80.4
11	横井礼以	ヨットの浮かぶ芦ノ湖	1953	油彩・キャンヴァス	65.0×80.0
12	吉川三伸	葉に因る絵画	1940	油彩・キャンヴァス	45.5×52.8
13	渡辺幾春	若き女	1922	絹本着彩、二曲一隻屏風	162.0×150.0

# 名品コレクション展Ⅲ

会期：2013年11月2日(土)～3月30日(日)

常設展示室1・2

\*：寄託作品 \*\*：特別出品  
i：前期11月2日(土)～12月23日(月・祝)  
ii：後期1月4日(土)～3月30日(日)

## 出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)	
-----	-----	-----	-----	-------	---------	--

### コレクション解析学

1	村井正誠	私の履歴書	1979	油彩・キャンヴァス 3パネル	145.5×576.7	i
2	オシップ・ザツキン	扇を持つ女	1923	ブロンズ	84.0×35.0×31.0	ii

### エコール・ド・パリ：モディリアーニと友人たち

1	コンスタンティン・ブランクーシ	うぶごえ	1917(1984)	ブロンズ	17.0×26.0×18.0	i
* 2	アンドレ・ドラク	婦人像	制作年不詳	油彩・板	43.5×27.3	ii
* 3	アルベール・グレース	キュビスム・静物	制作年不詳	油彩・キャンヴァス	61.0×47.5	i
4	キスリング	新聞のある静物	1913	油彩・キャンヴァス	81.0×100.0	i・ii
5	キスリング	ルネ・キスリング夫人の肖像	1920	油彩・キャンヴァス	73.3×54.6	i・ii
6	アメデオ・モディリアーニ	立てる裸婦(カリアティードのための習作)	c.1911-12	油彩・水彩・板、紙	83.0×47.8	i・ii
7	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	c.1918	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4	i・ii
8	パブロ・ピカソ	女	1922-23	エッチング・紙	21.3×17.6(11.8×7.9)	i・ii
9	ディエゴ・リベラ	スペイン風景(トレド)	1913	油彩・キャンヴァス	89.0×110.0	i・ii
10	ハイム・スーチン	農家の娘	c.1919	油彩・キャンヴァス	80.0×45.0	i・ii
11	ハイム・スーチン	セレの風景	c.1922	油彩・キャンヴァス	79.8×87.2	i・ii
12	モーリス・ユトリロ	ノルヴァン通り	1910	油彩・厚紙	73.1×92.0	i・ii
13	モーリス・ユトリロ	ラバン・アジュール	c.1913	油彩・キャンヴァス	50.0×65.0	i・ii
14	キース・ヴァン・ドンゲン	コルセットの女	1908	油彩・キャンヴァス	65.0×50.0	ii
15	モーリス・ド・ブラマンク	雪の村	1940's	油彩・キャンヴァス	54.2×65.0	ii
16	オシップ・ザツキン	扇を持つ女	1923	ブロンズ	84.0×35.0×31.0	i
17	藤田嗣治	自画像	1929	油彩、鉛筆、金箔・キャンヴァス	81.4×65.5	i・ii

### 現代の美術：(前期)反芸術とパフォーマンス

1	久野利博	Body Distance/July.11,1981(Hamamatsu)	1981	gsp	90.0×60.0	i
2	久野利博	Body Distance/August.13,1982(Firenze, Italy)	1982	gsp	90.0×60.0	i
3	久野利博	Body Distance/September.19,1982(Bourges)	1982	gsp	90.0×60.0	i
4	アンゼルム・キーファー	シベリアの女王	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	i
5	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	i
6	河原 温	「I Got Up」シリーズ	1976	スタンプ・絵葉書 20通	各9.0×14.0	i
7	荒川修作	名前のない耐えているものII	1958(1986)	セメント、綿	253.5×123.1×22.7	i
8	桑山忠明	無題	1965	アクリル・キャンヴァス	247.7×215.9	i
9	岸本清子	[Look Left!!の断片]	c.1967	アクリル・キャンヴァス	21.9×27.1	i
10	岸本清子	Look Left!!のための習作	c.1967	鉛筆、水彩・紙	37.6×53.6	i
11	岸本清子	Erotical Girls(エロチカル・ガールズ)一菊	1983	アクリル・合板	136.9×91.3	i
12	岸本清子	Erotical Girls(エロチカル・ガールズ)一片栗	1983	アクリル・合板	136.9×91.6	i
13	岸本清子	Erotical Girls(エロチカル・ガールズ)一クリスマス・ローズ	1983	アクリル・合板	136.4×91.0	i
14	元永定正	作品	1961	アクリル・キャンヴァス	118.0×93.0	i
* 15	アルマン	<怒り>シリーズ	1980	叩き潰したヴァイオリン、版画	55.8×40.0×40.0	i
16	岩田信市	ゼロ次元1	c.1962	油彩、ペンキ・合板	183.5×184.5	i
17	岩田信市	ゼロ次元2	c.1962	油彩、ペンキ・合板	183.5×184.5	i
18	岩田信市	ゼロ次元3	c.1962	油彩、ペンキ・合板	183.5×184.5	i
19	ぶろだくしょん我 s	週刊 週刊誌	1971	インク・紙(冊子、1セット24冊の一部)	25.8×18.2×0.7	i
20	水谷勇夫	公証人	1960	紙本着彩	162.0×130.0	i

### 現代の美術：(後期)時間の表現

1	エドワード・アーリントン	サチュルヌス	1988	インク、乳剤・紙、キャンヴァス	183.0×244.0	ii
2	アンゼルム・キーファー	シベリアの女王	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	ii
3	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	ii

4	エドワード・ルッシェ	20世紀	1988	油彩・キャンヴァス	150.0×368.0	ii
5	荒川修作	忘れるということ(掘り起こされて出し尽くしていること) A Forgetting (Exhaustion Exhumed)	1973-74	アクリル・キャンヴァス、コラージュ	195.5×609.9	ii
6	河口龍夫	関係一時のフロッターージュ	1996-97	和紙、蜜蝋、天然黄土、スチレンボード	46.3×36.3×4.2	ii
7	河原温	百万年—未来	1982	ゼロックスコピー、ルーズリーフバインダー 10巻	各30.5×22.8×7.6	ii
8	河原温	OCT. 12, 1972 (Todayシリーズ)	1972	リキテックス・キャンヴァス	45.5×61.5	ii
9	河原温	DEC. 4, 1975 (Todayシリーズ)	1975	リキテックス・キャンヴァス	45.5×61.5	ii
10	河原温	APR. 1, 1978 (Todayシリーズ)	1978	リキテックス・キャンヴァス	33.0×44.0	ii
11	河原温	JAN. 8, 1980 (Todayシリーズ)	1980	リキテックス・キャンヴァス	33.0×44.0	ii
12	河原温	MAR. 21, 1983 (Todayシリーズ)	1983	リキテックス・キャンヴァス	66.0×91.5	ii
13	河原温	14 JUL. 1986 (Todayシリーズ)	1986	リキテックス・キャンヴァス	45.5×61.5	ii
14	河原温	NOV. 17, 1988 (Todayシリーズ)	1988	リキテックス・キャンヴァス	133.4×194.3	ii
* * 15	杉本博司	Orpheum, California	1977	ゼラチンシルバープリント	42.2×54.4	ii
16	福田美蘭	陶器(スルバランによる)	1992	カラー写真	46.2×85.7×3.3	ii
17	福田美蘭	陶器(スルバランによる)	1992	カラー写真、レンチキュラー・レンズ	47.9×86.0×3.5	ii
18	藤本由紀夫	RECORD	2001	レコードディスク、ガラス、プラスチック板、合成皮革、モーターなど	30.0×30.0×10.0	ii
19	李禹煥	風とともに	1990	油彩・キャンヴァス 4パネル	260.0×776.0	ii

## メキシコ・ルネサンス:タマヨの版画

1	マニエル・アルバレス・ブラボ	ルフィーノ・タマヨ	1939-40(1987)	ゼラチンシルバープリント・紙	25.4×20.3	ii
2	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9	i・ii
3	ホセ・クレメンテ・オロスコ	白い神々	c. 1947	油彩・メゾナイト	71.0×91.5	i・ii
4	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏(3層)、ワイヤラス(金網)、合板	161.9×201.3	i・ii
5	ダビッド・アルファロ・シケイロス	婦人像	1934	油彩・メゾナイト	152.7×78.7	i・ii
6	ルフィーノ・タマヨ	乗り遅れた乗客	1946	油彩・キャンヴァス	97.2×84.0	i・ii
7	ルフィーノ・タマヨ	苦悶する人	1949	油彩・キャンヴァス	100.0×80.0	i・ii
8	ルフィーノ・タマヨ	メキシコの風	1952	リトグラフ・紙	各25.0×19.3	i・ii
9	ルフィーノ・タマヨ	聖ヨハネの黙示録	1959	リトグラフ・紙	32.8~33.0×25.0~25.3	i・ii
10	ルフィーノ・タマヨ	人物	1975	リトグラフ、エンボス・紙	76.0×55.0	i・ii
11	ルフィーノ・タマヨ	メキシコ国立音楽学校壁画構想案	1932	グワッシュ・紙	29.6×42.5	i・ii
12	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・ブリキ	14.9×11.0	i
13	北川民次	メキシコ水浴の図	1930	油彩・キャンヴァス	78.6×68.5	i・ii

## 郷土の美術:(前期) 静物を描くということ

* 1	朝見香城	静物	制作年不詳	絹本着彩、軸	48.6×57.3	i
2	伊藤敏博	破れたる壺と四個のリンゴ	1919	油彩・キャンヴァス	61.0×45.5	i
3	大沢鉦一郎	リンゴ3つ	1917	油彩・キャンヴァス	26.0×31.5	i
4	加藤延三	茄子と椒	1928	油彩・板	23.5×33.2	i
5	加藤延三	禍根一掃	1949/1963	油彩・板	45.5×54.0	i
6	北川民次	蔬菜の図	1941	紙本着彩、軸	43.0×50.2	i
7	木村莊八	[りんご]	[大正]	油彩・カルトン	17.0×24.3	i
8	鈴木不知	冬瓜	制作年不詳	油彩・キャンヴァス	45.5×61.0	i
9	津田青楓	京大根	[1970's]	紙本淡彩、軸	39.4×52.4	i
10	永井訟三	窓際の静物	c. 1930	油彩・キャンヴァス	73.5×91.0	i
11	中野安次郎	静物	1931	油彩・キャンヴァス	70.0×89.0	i
12	福田平八郎	蜜柑	1964	紙本着彩、金泥	36.6×53.6	i
13	宮脇晴	卓上の林檎	1919	油彩・板	24.2×33.3	i
14	宮脇晴	ぶどう	1923	油彩・キャンヴァス	27.8×40.8	i

## 郷土の美術:(後期) 花鳥画の世界

* 1	石河有鄰	巖上孔雀図	1923	絹本着色、軸	127.5×51.1	ii
2	石河有鄰	青緑蓬萊山仙境図	1933	絹本着色、軸	125.0×41.7	ii
3	石川英鳳	鶏図	c. 1957	絹本着色、額	92.2×142.5	ii
4	川合玉堂	秋嶺白雲	c. 1940	絹本着色、軸	78.8×99.4	ii
5	北野恒富	花鳥	1930's	絹本着色、額	56.5×67.3	ii
6	喜多村麦子	鷹之図	1926/1928	絹本着色、屏風(四曲一隻)	156.0×298.3	ii
7	小杉放庵	閑庭	1950's	紙本着色、軸	45.2×52.6	ii
8	榊原紫峰	雪中柳鷺図	1950-60's	絹本墨画着色、軸	120.0×27.0	ii
* * 9	竹内栖鳳	群雀図襖	明治時代	紙本墨画淡彩、襖(四面)	各171.0×111.0	ii
10	西山翠嶂	牡丹	1940's	絹本着色、軸	47.3×51.6	ii
* 11	前田青邨	紅白梅	昭和前期	紙本着色、額	49.5×74.5	ii
12	水谷芳年	花鳥図屏風	1920's	絹本着色、屏風(六曲一隻)	177.0×366.0	ii



## (2)常設企画展 Thematic Exhibition

### ポジション2013

水野誠司・初美展—フィンランド・ポートフォリオ—

Position2013

Photography of Hatsumi and Seiji Mizuno—Finland portfolio—

会期：2013年6月15日(土)～7月21日(日)

#### 会場

常設展示室 3

#### 内容

この地方で活動する作家の作品を紹介するポジション展として、フィンランドで写真を学んだ水野誠司・初美夫妻の作品を展示した。

水野夫妻の表現するフィンランドは、シベリウスの音楽やムーミン、食器や家具など、私たちが即座に思い描くフィンランドとはまた異なっている。寒さがこちらまで伝わってくるような森の木立や雪景色などフィンランドの大自然の中で撮影された写真の数々や、街角で撮られた表情豊かな写真は、どこかノスタルジックで懐かしい。夫妻の写真は技法として、古くからあるパラジウムプリントを用いており、私たちの心の奥にある過去の記憶を揺り動かすような作品の力は、そういった技法を通じて生まれているといえる。しかし一方で現代的な側面もあり、過去の古いものを大切にしながらも、しっかりと現代の視点からものを見ていくということが作品の中で実現されている。

この展示は、副題を「フィンランド・ポートフォリオ」とし、フィンランドで撮影した人物、風景、建物の写真を展示した。それらの作品は夫妻の北欧への愛情を伝えてくれるものであり、観る人に懐かしい想いと安らいだ気持ちを与えてくれた。

#### 関連事業

##### ①解説会

日時：7月6日(土)午後2時～

講師：中村暁子(名古屋市美術館学芸員)

会場：名古屋市美術館・常設展示室 3

##### ②作家によるギャラリートーク

日時：7月7日(日)午後2時～

講師：水野誠司・初美(写真家)

会場：名古屋市美術館・常設展示室 3

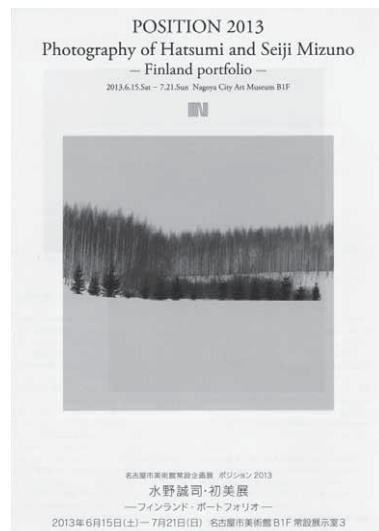
##### ③ギター演奏

日時：6月21日(金)、30日(日)、7月7日(日)、12日(金)、20日(土)

いずれも午後3時～

演奏：アレクサンドル・ガラガノフ(ギター奏者)

会場：名古屋市美術館・常設展示室 3



チラシ



ギャラリートーク



コンサート



会場風景



出品作品

No	作品名・日	作品名・英	所蔵先	技法	縦×横mm 画像サイズ	制作年
1	ヘイッキ・ロンカイネン	Heikki Ronkainen		Palladium print	145×145	2013
2	椅子、トペリウス通り	Chair, Topeliuksenkatu	個人蔵	Palladium print	114×114	2012
3	リータ・パイメンサロ	Riita Paimensalo		Palladium print	145×145	2013
4	商店、ルネバーグ通り	Shop, Runeberginkatu		Palladium print	152×152	2013
5	K.E. アヴィカイネン パン屋	Leipomo K.E. Avikainen		Palladium print	145×145	2013
6	夕暮れ時、ルネバーグ通り	Dusk, Runeberginkatu		Palladium print	127×127	2013
7	テラッカ バーマスター	TELAJKA bar master		Palladium print	145×145	2013
8	時計塔、ヘルシンキ中央駅	Clocktower, Helsinki Central railway station		Palladium print	152×152	2013
9	スティグ・グスタフソン	Stig Gustafsson		Palladium print	145×145	2013
10	木、ハメーンティエ158番地	Tree, H?meentie158		Palladium print	152×152	2013
11	ヤーッコ・ルースカ	Jaakko Ruuska		Palladium print	145×145	2013
12	アレクシス・キヴィ、駅前広場	Aleksis Kivi, Railway Square		Palladium print	127×127	2013
13	鳥	A bird		Palladium print	127×178	2013
14	森へ	Into the forest		Palladium print	127×178	2012
15	栈橋	Wooden Platform	個人蔵	Palladium print	109×165	2010
16	10月の終わり	Late October	個人蔵	Palladium print	279×279	2012
17	静かな所へ	Approaching silence		Palladium print	279×279	2012
18	穏やかな場所	The healing place		Palladium print	279×279	2012
19	真夜中の太陽	Midnight sun		Palladium print	279×279	2012
20	北の方へ	Northbound		Platinum・Palladium print	152×229	2012
21	霧の中の風景	Landscape in the Mist		Palladium print	152×229	2013
22	暗森 #18	Forest obscura #18		Palladium print	137×206	2013
23	暗森にて	In the dark tree		Palladium print	152×102	2011
24	暗森 #17	Forest obscura #17	個人蔵	Palladium print	206×137	2013
25	暗森 #20	Forest obscura #20		Palladium print	229×152	2013
26	暗森 #3	Forest obscura #3	個人蔵	Palladium print	229×152	2012
27	氷 #1	Ice #1		Palladium print	229×152	2013
28	氷 #2	Ice #2		Palladium print	229×152	2013
29	玄 Hikari #1	GEN Hikari #1		Palladium print	279×279	2012
30	玄 Hikari #2	GEN Hikari #2	個人蔵	Palladium print	279×279	2012
31	玄 Hikari #3	GEN Hikari #3		Palladium print	279×279	2012
32	玄 Hikari #4	GEN Hikari #4		Palladium print	279×279	2012
33	浮光	Hikari flux		Palladium print	142×142	2010
34	枝のシルエット	Silhouette of twigs		Palladium print	102×152	2011
35	暗森 #12	Forest obscura #12	個人蔵	Palladium print	152×229	2012
36	雪の丘	Snowy hill	個人蔵	Palladium print	178×178	2011
37	葎雪	Kaislat lumi		Palladium print	152×102	2011
38	春の上空へ	Up from spring sky		Platinum・Palladium print	180×102	2011
39	翼	Wing	個人蔵	Palladium print	84×119	2010
40	イースターの光 #1	Pääsiäisen valo #1		Palladium print	229×152	2013
41	イースターの光 #2	Pääsiäisen valo #2		Palladium print	229×152	2013
42	木のあるところ	Tree place		Palladium print	178×178	2013
43	ウインドフラワー	Valkovuokko		Palladium print	178×178	2013
44	さんぼ道	Footpath		Palladium print	178×178	2013
45	バルティック海	Baltic sea	個人蔵	Palladium print	165×165	2013

## 特集 I 村上友晴《十字架の道》

MURAKAMI Tomoharu: The Stations of the Cross

会期：2013年 8月10日(土)～10月27日(日)

### 会場

常設展示室 3

### 内容

日本の現代美術の孤高の存在である画家・村上友晴(1938-)は、修道士のような生活のなかで、生涯を掛けた「神への祈り」を捧げる行為として、半世紀以上に渡って、寡黙な絵画を制作してきた。《十字架の道》(1998年)は、刑の言い渡しから鞭打ち、重い十字架を担いだゴルゴダの丘の道行き、磔刑、十字架降下、埋葬に到るまでのキリストの最後の「受難」を14の場面で描いた作品である。

村上友晴の寡黙な「黒い絵画」は、一見すると、ほとんど黒一色の無表情で何も無い絵画のように見える。何かのイメージが描かれているわけでも、激しい筆跡が残されているわけでもなく、また平坦な色面として仕上げられているわけでも、鮮烈な色彩が塗布されているわけでもない。しかし、じっくりと見ると、その画面には画家の手仕事の成果が刻まれている。華やかな色彩も躍動する造形もないが、静けさのなかに秘められた圧倒的な存在感が漂っている。そこには挫折と葛藤、試行錯誤と自己対話を繰り返しながら到達した「神への祈り」として、長い時間を掛けて、一筆一筆、心を込めて絵具を積み重ねていく行為の成果が現れているのである。

常設展の特集「村上友晴《十字架の道》」では、1990年代の代表的な連作《十字架の道》(1998年)と《十字架》(1998年)とともに、新たな展開を見せた《マリア礼拝堂》(2009年)を紹介した。静けさのなかに秘められたキリストの「受難」と聖母マリアの「愛」を感じるとともに、新しい世紀の「揺れる大地」を迷いながらも歩み続ける私たち自身の姿に思いを馳せる貴重な機会となった。

### 関連事業

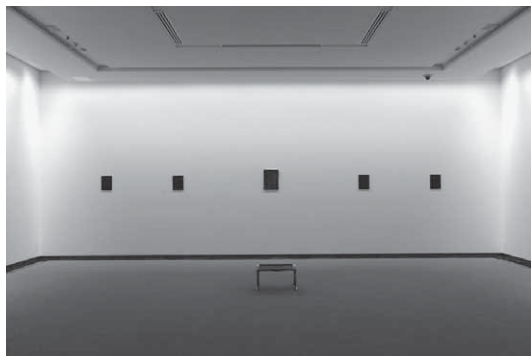
解説会「十字架の道：村上友晴の芸術について」

日時：2013年10月6日(日)午後2時～

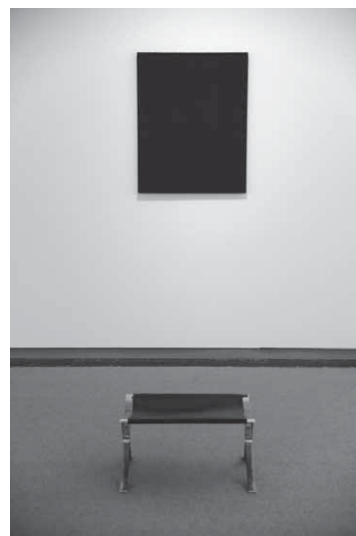
講師：山田諭(名古屋市美術館学芸員)

### 出品作品

1	《十字架の道》	1998年	油彩、アクリル・紙(14点組)	各31.5×23.0cm
2	《十字架》	1998年	油彩、アクリル・紙	43.5×32.0cm
3	《マリア礼拝堂》	2009年	油彩、鉄筆・キャンバス	91.0×72.5cm



会場風景



会場風景

## 特集Ⅱ 没後100年記念 ホセ・グアダルーペ・ポサダ

Jose Guadalupe POSADA: The Centennial Anniversary of his Death

会期：2013年11月2日(土)～12月23日(月・祝)

### 会場

常設展示室 3

### 内容

ホセ・グアダルーペ・ポサダ(1852-1913)は、革命の嵐が吹き荒れた20世紀初頭のメキシコにおいて活躍した民衆版画家である。

メキシコ・シティの大衆出版社バネガス・アローヨの工房において、ポサダはその生涯に1万点とも2万点とも言われる膨大な数の作品を制作したが、そのほとんどは一枚物のちらしや新聞の挿絵版画であった。

メキシコの民衆生活のあらゆる出来事、すなわち革命に至る政治的な事件(戦闘や暴動、銃殺刑や英雄の死)や宗教にまつわる奇蹟から、事故や災害などの災難や殺人や誘拐などの犯罪、さらには物語歌(コリッド)や演劇台本までを、つねに民衆の立場からアクチュアルに、また教訓的に伝えている。そのなかでもとくに、あらゆる人間を骸骨として描いた「カラベラ(骸骨)」シリーズは有名で、この世の出来事のすべてを哄笑する骸骨たちに演じさせることで、現実の仮面を引き剥がし、隠された真実を突きつけてくる。そのユーモアと機知(ウィット)に溢れた版画作品は、すべての民衆に愛され、またその激的な諷刺画(カリカチュア)は、革命を影で煽動したと言われるほど、民衆の心を揺さぶり、行動へと駆り立てたのである。

特集「没後100年記念 ホセ・グアダルーペ・ポサダ」では、没後100年という記念すべき年(2013年)を迎えて、「メキシコ・ルネサンス」壁画運動の豊かな源泉となった民衆版画家ポサダの芸術を、名古屋市美術館が世界に誇るポサダ・コレクション(総計262点)から厳選した作品(約50点)を改めて紹介した。

### 関連事業

解説会「哄笑する骸骨たち:ポサダの芸術について」

日時:2013年11月3日(日)午後2時～

講師:山田諭(名古屋市美術館学芸員)



会場風景

## 出品作品

01	芸術家たちの煉獄		活字	f.
02	骸骨の山	1907年頃	亜鉛	h.
03	「覆面をした若者」の骸骨	1919年	亜鉛	h.
04	モレリアの骸骨		活字	h.
05	清掃車の骸骨		活字	h.
06	骸骨たちの大舞踏会	1906年	活字	h.
07	骸骨たちの贈り物	1911年	活字	h.
08	コヨーテの骸骨と女給たち	1919年	亜鉛	h.
09	エミリアーノ・サパタの骸骨	1912(1910-12)年	亜鉛	h.
10	フランシスコ・マデロの骸骨	1912(1910)年	亜鉛	h.
11	新聞人の骸骨	1906年頃	亜鉛	h.
12	愛の巨大墓地		活字	h.
13	ポルフィリオ・ディアス将軍	1920年	活字	f.
14	フランシスコ・マデロの全国遊説	1911(1910-11)年	亜鉛	h.
15	1913年2月のメキシコの反乱	1913(1892)年	活字	h.
16	ルシアーノ・イスラスの銃殺刑	1899年	活字	h.
17	ベルン監獄のヘスス・ブルーノ・マルチネス	1892年頃	活字	h.
18	ヘスス・ネグレテの銃殺刑	1910年	亜鉛	q
19	兵士ブルーノ・アプレサの銃殺刑	1904年	活字	q
20	エミリアーノ・サパタの死	1913(1910-12)年	亜鉛	q
21	プエブラの流血事件	1910年	亜鉛	q
22	サン・ファン・デ・ロス・ラゴスの聖母	1902年	活字	h
23	ロス・ラゴスの聖母との涙の別れ		活字	q
24	隠れ家の聖母への礼拝	1890-1900年頃	活字	h
25	孤独の聖母 慈悲の山へ	1925年	活字	f
26	孤独な魂		活字	h
27	終末は近い	1894年頃	活字	h
28	グアナファトの大洪水	1905年	亜鉛	q
29	タクバヤでの恐るべき爆発	1913年	活字	q
30	エル・パソ2号の衝突と脱線	1907年	活字	q
31	独立100周年の彗星	1910年	亜鉛	q
32	怪奇通信:死体を食らった男	1907年	活字	q
33	反抗的な青年への見せしめの出来事	1890-99年頃	活字	q
34	恐怖の怪奇事件:両親を毒殺した男	1906年	亜鉛	q
35	怪奇通信:骸骨の告解	1903年	亜鉛	q
36	信じられない犯罪:獣のような女	1902年	亜鉛	q
37	身の毛のよだつ犯罪:赤子を切り刻んだ母親	1903年	亜鉛	q
38	恐怖の怪奇事件:幼女を暴行した男	1912年	亜鉛	q
39	情熱による悲劇:恋人を殺した警官	1912年	亜鉛	q
40	100人の夫を持つ女	1911年	亜鉛	q
41	チウアウアからの驚くべき醜聞		亜鉛	q
42	悪魔の大頭:「田舎祭の遊び」	1890-1900年頃	活字	b
43	子ども劇場回廊:「悪魔の競売人」		亜鉛	b
44	子ども劇場回廊:喜劇集「警官たち」		亜鉛	b
45	子ども劇場回廊:「魔法にかかった薔薇」		亜鉛	b
46	幼き日の喜び:「希望のない愛」		亜鉛	b
47	聖なる巡礼者の九日間		亜鉛	b.

\* 制作年は、出版年(原版制作年)、無記入は出版、制作年不明。

技法は、活字 = 活字合金版エングレーヴィング / 亜鉛 = 亜鉛版エッチング

紙サイズは、f. = 60 × 40cm, h. = 40 × 30cm, q. = 30 × 20cm, b. = 15 × 10cm

## 独立と革命 メキシコ現代版画展

Independence & Revolution: Mexican Contemporary Prints

会期：2014年1月4日(土)～3月30日(日)

### 会場

常設展示室 3

### 内容

メキシコがエルナン・コルテス率いるスペイン軍によって滅ぼされ、最後の皇帝クアウテモックが処刑されたのは1521年のことです。以後、約300年にわたりメキシコはスペインの支配下に置かれますが、民族独立の機運のもと、スペインからの独立戦争が開始されたのが「1810年」のことでした。その後アメリカやフランスなどの干渉を受け、メキシコは半世紀近く不安定な状態に陥りますが、1876年にディアスが大統領に就任すると、ようやく安定を取戻します。しかし、その後30年以上にわたったディアス体制は、やがて強権的な独裁政治へと向かい、国内に著しい貧富の格差を生みだします。虐げられた庶民の鬱屈した思いが革命となって爆発したのは「1910年」のことでした。

こうしてメキシコは2度にわたる圧制からの解放を経験して近代国家としての歩みを始めるのですが、2010年はスペインからの独立運動が始まって200年、ディアスの独裁政治打倒の革命が始まって100年の大きな節目の年となりました。これを記念して制作されたのが作品集《独立と革命》です。20代の若手から90代の巨匠まで、52人の多彩な作家によるこの作品集には、幾多の苦難を乗り越えて誕生した祖国に対する、芸術家たちの熱い思いが込められています。限定100セットが制作されたこの版画集の中の1セットが、メキシコ・ルネサンスをコレクションの柱の一つとする名古屋市美術館に寄贈されました。今回の展示ではその中から42人の作家による多種・多様な作品の数々をご覧いただきました。



会場風景

出品作品

No.	作家名	生年	作品名	技法	寸法(イメージ・サイズ)
1	ジョイ・ラビーリャ	1923	花瓶	写真製版	50.0×38.5cm
2	アルトゥーロ・ガルシア・ブストス	1926	農民の抗議	木版	66.0×57.5cm
3	アドルフォ・メヒアック	1927	祖国	木版	98.0×74.0cm
*4	マヌエル・フェルゲレス	1928	無題	グラビア印刷	39.2×53.0cm
*5	ロゲル・フォン・グンテン	1933	チャチャラカの魔女	写真製版	50.0×40.0cm
6	マリオ・ベネデッティ	1938	責務	金属／グラビア印刷	57.5×112.5cm
7	ピエル・ブラグリオ	1939	無題(メキシコ地図)	リトグラフ	50.0×60.0cm
8	ルイス・ロペス・ローザ	1939	歪曲した形	リトグラフ	39.0×26.7cm
9	ラウル・エレーラ	1941	鷲と蛇の戦い	亜鉛板にグラビア印刷、エッチング、アクアチント	63.4×49.4cm
10	ホセ・ラスカロ・トケーロ	1941	革命	グラビア印刷、エッチング、木版	49.3×62.8cm
11	イルマ・パラシオス	1943	無題	ソフト・グラウンド・エッチング	59.0×49.0cm
12	ペエル・アンデルソン	1946	どんな石にも可能性がある	リトグラフ	50.0×60.0cm
*13	ミンモ・パラディーノ	1948	祖国または死	リトグラフ	73.0×53.7cm
14	ピラル・ボルデス	1948	使者	エッチング、アクアチント	69.5×98.5cm
15	エンリケ・ベレス	1950	遺産	エッチング、アクアチント	45.0×78.5cm
*16	ハビエ・フェルナンデス	1951	花と打撃の間	エッチング、アクアチント	49.7×59.8cm
17	ホセ・カストロ・レニエーロ	1953	テラス	リトグラフ	90.4×122.0cm
18	ガブリエル・マコテラ	1954	死者は祝わず	エッチング、アクアチント	50.0×59.8cm
19	フランシスコ・カストロ・レニエーロ	1954	ゲーム	リトグラフ	50.0×42.2cm
*20	エロイ・タルシシオ	1955	無題	エッチング、アクアチント	51.1×77.5cm
21	サウル・ビリャ	1958	セルバンド	エッチング、アクアチント	79.0×50.5cm
*22	ホセ・アントニオ・カステイリョ	1958	断片	エッチング	61.0×84.0cm
*23	ホセ・マルティン・スライマン	1958	概要	木版、転写	64.0×45.5cm
24	ロベルト・トゥルンブル	1959	旗の提案	エッチング、アクアチント	50.0×58.7cm
25	ボリス・ビスキン	1960	我が独立50周年記念	グラビア印刷、デジタル写真	46.5×39.0cm
26	マリサ・ボウロサ	1961	ガナファットと2010年のガナファット(二枚一組)	アルグラフィア(アルミニウム版にリトグラフ)	各60.0×50.0cm
27	ルベン・マヤ	1964	宇宙の二面性	エッチング、アクアチント	46.0×39.0cm
28	アレハンドロ・サンチャゴ	1964	自由への夢	エッチング、アクアチント	50.0×60.0cm
29	ルイス・リカウルテ	1964	自由な心	セリグラフ	58.5×48.2cm
30	フランコ・アセバス・ウマナ	1965	無題	リトグラフ	91.7×66.3cm
*31	モニカ・サウセード	1966	百2百	エッチング、アクアチント	49.8×60.8cm
*32	アレハンドロ・ベレス・クルス	1966	未来への予感	リトグラフ、セリグラフ	87.0×70.0cm
*33	ホエル・レンドン	1967	二つの頭、二本の足、二百年	リノリウム版	98.3×69.3cm
*34	ギレルモ・オルギン	1969	メキシコ共和国	エッチング、アクアチント	49.0×70.5cm
35	ラファエル・ルイス・モレーノ	1969	競技者	リトグラフ	60.1×50.0cm
36	シスコ・ヒメネス	1969	六つの前立腺	アルグラフィア(アルミニウム版にリトグラフ)	44.4×39.0cm
37	モリヤマ・テルミ	1969	変化と不安	エッチング、アクアチント、エングレーヴィング	44.5×30.0cm
38	デミアン・フロレス	1971	祖国	リトグラフ	50.0×60.0cm
39	アンドレス・バスケス・グロリア	1971	無題	エッチング、アクアチント	37.0×49.0cm
40	エミリアーノ・ヒコネラ	1972	トロイヤの列車	ソフト・グラウンド・エッチング	49.5×78.5cm
41	パトリシア・コルドバ	1973	夢 168	リトグラフ	65.0×93.4cm
*42	アナ・サントス	1978	混沌を見るもの達	エッチング	49.3×68.2cm

\*印の作品は後期(2月18日～3月30日)の展示



平成25年度は、6本の特別展を開催しました。年度最初の特別展は、近代日本画の歴史の中でも屈指の人気を誇る上村松園の回顧展を開催しました。女性として初の文化勲章を受章したことでも知られる上村松園は、その清らかで品格に満ちた美人画で広く知られていますが、今回の展覧会では半世紀を超えるその画業の全貌を、数々の代表作によってたどるとともに、未だ封建的な男性中心主義の社会の中で試練や困難を乗り越えていったその人生にも焦点を当てました。松園の個展は、これまで各地で何度も開催されていますが、長らく未公開だった作品が発掘されるなど、今回の展覧会で初めて紹介される作品も少なくなく、確かな技術に裏打ちされたその優美な絵画世界が改めて多くの来館者を魅了しました。さらに、地下の常設展示室3では、「松園の下絵と素描」と題し、下絵や素描類を中心に本画の制作過程を紹介する展示を併せて行いました。完璧な美を実現した最終作に至る過程で、いかに松園が試行錯誤と努力を積み重ねていたかを物語る下絵類の展示を、来館者の方々は興味深くご覧になっていました。

6月から7月にかけては、絵本原画を紹介する「はじめての美術 絵本原画の世界2013」を開催しました。宮城県美術館が所蔵する充実した絵本原画のコレクションの中から選び抜いた320点あまりの作品によって構成されたこの展覧会は、絵本の世界を子供たちが触れる「はじめての美術」と位置付けご紹介しました。「おおきなかぶ」や「ぐりとぐら」など、世代を超えて読み継がれる名作をはじめ、多彩な広がりを持つ絵本の世界を堪能していただくとともに、印刷された絵本とは一味もふた味も違う、原画ならではの豊かな色彩世界をお楽しみいただきました。今現在、絵本を楽しんでいる子どもたちだけでなく、かつて絵本に親しんだ大人の方々の来場者も数多く、親子や家族連れで感想を述べ合いながら展示室を回る姿が印象的でした。

8月から10月にかけては、第二回目となる「あいちトリエンナーレ2013」を開催しました。2010年に第一回展を開催し大きな反響を呼んだあいちトリエンナーレですが、二回目となる今回は名古屋だけでなく岡崎

地区にも会場を設け、さらにパワーアップして開催されました。名古屋市美術館の会場では、建築家青木淳のコンセプトにより、美術館の建物にも手が加えられ、通常とは異なる南側の非常口から館内に入り、展示室の吹き抜け部分に階段を増設して2階に上がっていくなど、展示された作品だけでなく、美術館の空間についても新しい体験をしていただきました。この展示によって、黒川紀章設計の当美術館の建築の面白さを再認識された方も多かったのではないのでしょうか。さらに公園内に設置された藤森照信の《空飛ぶ泥船》は、そのユーモラスな外観と宙に浮かんだ意外性とで、人気を集めました。

11月から12月にかけては、高松次郎、赤瀬川原平、中西夏之の三人の作家によって結成されたグループ「ハイレッド・センター」の活動を紹介する展覧会を開催しました。東京オリンピック開催直前の1963年に結成されたこのグループは、活動期間としては短命でしたが、そのもたらしたインパクトは強烈で、半世紀を経た現在もお新鮮な驚きを与えてくれます。三人の作品だけでなく、当時の活動の様子を伝えてくれる写真パネルやビデオ、資料の展示を通じて、半世紀前の革命的な芸術活動が展示室内に生々しくよみがえりました。会場内には若い方々の姿も多くみられましたが、自分たちが生まれるはるか前に、こんな刺激的な活動が展開されていたことに驚いているようでした。

平成25年度最後の特別展は「親子で楽しむアートの世界 遠回りの旅」展を開催しました。親子や家族連れで幅広く楽しんでいただきたい、という意図で企画された展覧会で、名古屋市美術館のコレクションを中心に、近隣の美術館のご協力を得ながら「旅」をテーマに内容を組み立てました。さらに、アーティスト・ユニットD.D.の協力を得て、会場内には迷路状の作品2点を設置しましたが、これは子どもたちだけでなく大人の皆さんにも大好評。視覚だけでなく、五感を駆使して体験する作品の面白さに、大人も子どもも大満足の様子でした。この展覧会から小中学生の入場料金を無料にしたこともあり、特に週末は家族連れで楽しむ方々で大変にぎわいました。

# 名古屋市美術館 開館25周年記念 上村松園展

Shoen Uemura: A Retrospective

会期：2013年4月20日(土)～6月2日(日)

## 主催

名古屋市美術館、中日新聞社

## 後援

愛知県・岐阜県・三重県各教育委員会

## 協賛

アイシン・エイ・ダブリュ

## 特別協力

公益財団法人松伯美術館

## 協力

名古屋市交通局、JR東海、名古屋鉄道、近畿日本鉄道

## 観覧料

一般1,300円、高大生900円、小中生500円

## 企画協力

上村淳之(日本藝術院会員・日本画家)、内山武夫(元京都国立近代美術館長)

## 企画・構成

吉田俊英(豊田市美術館長)

## \* 会期中、作品の展示替えを実施

前期：4月20日(土)～5月12日(日)

後期：5月14日(火)～6月2日(日)

(一部の作品は変則期間での公開)

## 内容

74年の生涯をひたすら絵の道に捧げ、日本美人画の歴史に残る数々の傑作を世に送り出してきた女流画家・上村松園(1875 - 1949)。戦後には女性で初となる文化勲章を受章し、京都および日本画壇を代表する画家の一人として輝かしい成功を取めているが、そこに至るまでの道程は決して平坦なものではなかった。本展覧会では、一人の画家として、また女性として、困難に立ち向かいながらも変わらぬ姿勢を貫いた松園の生き方に焦点を当て、93点の作品を紹介した。3人の師に学んだ修行時代(一 歴史に学ぶ)から、名声の高まりとともに厳しい批判や中傷を受けた明治後期(二 風俗を描く)、制作の行き詰まりや人生の迷いを経験した大正時代(三 女心を描くⅠ)、最愛の母の死や能楽への関心をきっかけに名作を次々と生み出した昭和前期(四 女心を描くⅡ)、疎開した奈良・平城の自然豊かな環境で過ごした戦後(五 穏やかな日々)まで、松園の画業と人生を辿る形で、五つの章に分けて展覧会を構成した。また、地下1階常設展示室3にて「松園の下絵と素描」展を開催、逆境を乗り越えるための努力が垣間見える写生や縮図(浮世絵などの模写)、大下絵を展示



ポスター



図録

し、松園の知見の広さや運筆の技量の高さを示した。また、女性(松園)だからこそ描ける美人画のディテールにも注目し、衣裳や髪形についての理解の助けとして、カタログには長崎巖氏(共立女子大学教授)に「上村松園と着物―着物への思いと服飾表現―」を寄稿していただき、また民族衣裳文化普及協会主催による「きものショー」、京谷武弘氏(京屋かつら代表取締役)の解説による「髪結い実演」を実施した。「松園の下絵と素描」展には、遺品の筆や眼鏡を展示し、また松園が没年に松坂屋京都染色参考館で模写した着物《紫綸子地藤丸模様小袖》も展示した。

## 図録

26.9×21.0cm 216頁

編集:名古屋市美術館 中日新聞社

執筆:上村淳之(日本藝術院会員・日本画家)、吉田俊英(豊田市美術館長)、長崎巖(共立女史大学教授)、深谷克典(名古屋市美術館副館長)、保崎裕徳(名古屋市美術館学芸員)

翻訳:マーサ・マクリントク

デザイン:森重智子(美術出版社 デザインセンター)

制作:石塚肇、西尾玉緒、住谷美都子(美術出版社 デザインセンター)

発行:上村松園展実行委員会(名古屋市美術館、中日新聞社)

価格:2,300円

## 関連事業

### 講演会

日時:2013年4月28日(日)午後2時～(約90分)

講師:吉田俊英(豊田市美術館長)

演題:「上村松園—生きる姿勢を絵筆に托して—」

場所:2階講堂(無料、定員180名、先着順)

日時:2013年5月19日(日)午後2時～(約90分)

講師:長崎巖(共立女子大学教授)

演題:「上村松園—きものを愛する心とその芸術—」

場所:2階講堂(無料、定員180名、先着順)

### 展覧会解説

日時:2013年5月4日(土・祝)、2013年5月25日(土)各日午後2時～(約60分)

解説者:保崎裕徳(名古屋市美術館学芸員)

場所:2階講堂(無料、定員180名、先着順)

### きものショー

日時:2013年5月16日(木)午後1時20分～(約40分)

演題:「松園美人たちの衣装—きものの着方と帯結び」

主催:民族衣裳文化普及協会

場所:地下1階ロビー(無料)

### 髪結び実演

日時:2013年5月31日(金)午後2時～(約90分)

演題:「美しさは髪形より—松園美人画の日本髪の魅力」

講師:京谷武弘(京屋かつら代表取締役)

場所:2階講堂(無料、定員80名、先着順)

### 第一回中日文楽記念 ふれてみよう文楽in上村松園展

日時:2013年5月1日(水)午後1時30分～(約30分)

出演:吉田幸助、吉田玉誉、吉田玉路

場所:サンクンガーデン(事前申込制、150名)

### ボランティアによるギャラリートーク

開催日:[4月]4月23日(火)、24日(水)、25日(木)、26日(金)

[5月]5月8日(水)、9日(木)、10日(金)、14日(火)、15日(水)、16日(木)、17日(金)、21日(火)、22日(水)、23日(木)、24日(金)

開始時間:10時00分～/13時00分～(約60分)



会場風景



会場風景



# はじめての美術 絵本原画の世界2013

First Art — The World of Original Illustrations  
for Children's Book, 2013

会期：2013年6月15日(土)～7月21日(日)

## 主催

名古屋市美術館、NHK名古屋放送局、NHKプラネット中部、中日新聞社

## 出品協力

宮城県美術館

## 後援

愛知県・岐阜県・三重県各教育委員会、名古屋市立小中学校・幼稚園各PTA協議会、名古屋市幼児教育研究協議会

## 協力

福音館書店、名古屋市交通局

## 観覧料

一般：1,000円、高大生：700円、小中生：300円

## 内容

1956年創刊の福音館書店発行の月刊絵本「こどものとも」の初期作品を核とする宮城県美術館の絵本原画コレクションから選りすぐった26作家43タイトル320点あまりの作品を紹介するもので、「おおきなかぶ」(佐藤忠良)、「しょうぼうじどうしゃじぶた」(山本忠敬)、「ぐりとぐら」(山脇百合子)、「おしゃべりなたまごやき」(長新太)、「はじめてのおつかい」(林明子)など、世代を超えて今なお読みつがれている日本の絵本を代表する名作の数々を含んでいる。時代を代表する作家たちが手がけた「こどものとも」の絵画は、それぞれの作家によって多様な表現が試みられており、そこから今日の絵本の定型ともなった新しい表現が生まれていることも少なくない。絵本は私たちがはじめて出会う美術表現のひとつであり、原画が持つ独自の魅力に触れることを通してそのことを再確認し、本物の美術作品が持つ力とそれがもたらす喜びをあらためて感じ取っていただくとともに、選び抜かれた絵本原画の美術表現を通して戦後日本の美術表現の豊かさに触れていただく機会とした。

## 出品作家(敬称略、50音順)

秋野不矩／池田龍雄／太田大八／小野かおる／小野木学／桂ゆき／小出保子／佐藤忠良／関野準一郎／田島征三／長新太／寺島龍一／富山妙子／中谷千代子／なかのひろたか／林明子／稗田一穂／土方久功／堀文子／水四澄子／村山知義／矢吹申彦／山中春雄／山本忠敬／山脇百合子／吉井忠

## 図録

29.6×22.7cm 144頁

編集：宮城県美術館、名古屋市美術館、平塚市美術館、静岡市美術館

発行：NHKプラネット東北



ポスター



図録



会場風景

## 関連催事

---

### 記念講演会「絵本原画のたのしみ」

日時:2013年6月15日(土)午後2時～4時

講師:有川幾夫(宮城県美術館館長)

会場:2階講堂、無料

### 解説会

日時:2013年6月30日(日)午後2時～4時

講師:角田美奈子(名古屋市美術館学芸員)

会場:2階講堂、無料

### ワークショップ「こんを作ろう」

日時:2013年6月22日(土)

1回目:午前10時～12時

2回目:午後2時～4時

講師:岡庭智子(アーティスト)

会場:2階講堂

対象:小学校5年生以上

参加費:500円

### ワークショップ「じぶたを作ろう」

日時:2013年7月6日(土)

午前10時～午後3時(1時間の休憩を含む)

講師:井垣理史(アーティスト)

会場:2階講堂

対象:小学校5年生以上

参加費:500円

### コンサート「絵本原画の音楽」

日時:2013年7月20日(土)午後2時～3時

演者:野村誠(作曲家、ピアニスト、鍵盤ハーモニカ奏者)

会場:はじめての美術展会場、無料(展覧会入場券を要する)

# あいちトリエンナーレ2013

## 揺れる大地

われわれはどこに立っているのか:場所、記憶、そして復活

Aichi Triennale 2013

Awakening

—Where Are We Standing?— Earth, Memory and Resurrection

会期:2013年8月10日(土)~10月27日(日)

### 主催

あいちトリエンナーレ実行委員会

### 芸術監督

五十嵐太郎

### 特別協力

国際交流基金

### 観覧料

一般:1,800円、大学生:1,300円、高校生:700円、小中生:無料

### 内容

アートが街に飛び出し、都市の祝祭で賑わった「あいちトリエンナーレ2010」から3年。第2回となる「あいちトリエンナーレ2013」は、東日本大震災後のアートを意識しつつ、世界各地で起きている社会の変動と共振しながら、国内外の先端的な現代美術などを紹介した。今回は名古屋市内の美術館を飛び出すまちなか展開のほか、岡崎市内のまちなかにも会場を設けました。

名古屋市美術館会場では、建築家・青木淳によって新たに改修・創出された展示空間のなかで、世界各国のアーティストたち(アルフレッド・ジャー、イ・ブル、ワリッド・ラード、杉戸洋、ブーンスイ・タントロンシン)が作品を発表した。また、美術館敷地内には、藤森照信や青木野枝、横山裕一の作品も展示された。

### 図録(公式ガイドブック)

21.0×14.8cm 202頁

監修:あいちトリエンナーレ実行委員会

発行:株式会社美術出版社

### 関連事業

トリエンナーレスケール2013

「列島改造論2.0とナゴヤ・ソーシャルロープ・プロジェクト構想

日時:6月29日(土)午後2時~

講師:藤村龍至(出品作家)、五十嵐太郎(芸術監督)

まちトリ アーティストトーク

日時:7月21日(日)午後2時~

講師:ウィット・ビムカンチャナボン(出品作家)

まちトリ アーティストトーク

日時:8月24日(土)午後1時~

講師:マーロン・グリフィス(出品作家)



ポスター



図録

まちトリ トーク「トリエンナーレの裏側(名古屋編)」

日時:9月8日(日)午後1時~

講師:住友文彦(あいちトリエンナーレ・キュレーター)など

建物公開「スポットライト:青木淳・杉戸洋(スパイダース)」

日時:9月14日(土)午後1時~

講師:青木淳・杉戸洋(スパイダース)(出品作家)

クロージング・イベント「あいちトリエンナーレ2013に関する『Q&A』」

日時:10月25日(金)午後6時~

講師:五十嵐太郎(芸術監督)はじめ関係者多数





会場風景：藤森昭信



会場風景：スパイダース (青木淳・杉戸洋)

## ハイレッド・センター：「直接行動」の軌跡展

Hi-Red Center: The Documents of "Direct Action"

会期：2013年11月9日(土)～12月23日(日)

### 主催

名古屋市美術館、日本経済新聞社、テレビ愛知

### 後援

愛知県・岐阜県・三重県各教育委員会

### 協力

名古屋市交通局

### 観覧料

一般：1,000円、高大生：700円、小中生：400円

### 内容

戦後美術の坩堝であった読売アンデパンダン展が崩壊した1963年、三人の若き前衛芸術家(高松次郎、赤瀬川原平、中西夏之)によって、ハイレッド・センターは結成された。安保闘争後、高度経済成長の道を邁進する1960年代の日本において、三人の頭文字の英訳(Hi-Red Center)を並べただけの公共団体を思わせる名称を掲げて、平穏な「日常」のなかに「芸術」を持ち込むことで、退屈な「日常」を「攪拌」しようと試みたのである。山手線の車内や有楽町駅などで行われた「山手線事件」を先駆として、HRCの武器(紐、梱包、洗濯バサミ)を公開した「第5次ミキサー計画」からはじまって、核時代の世界の現実を背景として帝国ホテルで行われた「シェルター計画」や東京オリンピックが開催される銀座の並木通りで行われた「首都圏清掃整理促進運動」などの「直接行動」は、現代社会における「芸術」的な陰謀として実行され。そして、千円札裁判の「法廷における大博覧会」に至るまで、HRCは「行為」としての「芸術」を展開した代表的なグループとして、アメリカやヨーロッパの美術界から熱い注目を集めている。記念すべき結成50周年に開催する本展では、HRCが発行した印刷物やイベントの記録写真をはじめとして、主要メンバーの同時期の作品も含めて、ハイレッド・センターの「直接行動」の軌跡を紹介した。

### 図録

28.5×21.6×2.7cm 240頁

編集：名古屋市美術館、渋谷区立松濤美術館

発行：「ハイレッド・センター」展実行委員会

### 関連事業

フィルム・パフォーマンス&レクチャー

プログラム：「視姦について」「Ai」「リリパット王国舞踏会」「DADA62」

レクチャー：「映像による〈直接行動〉」

日時：11月10日(土)午後2時～

講師：飯村隆彦(映像作家)

解説会「ハイレッド・センターの〈直接行動〉について」

日時：11月17日(日)午後2時～

講師：山田諭(名古屋市美術館学芸員)

特別講演会「中西夏之、ハイレッド・センターを語る！」

日時：12月14日(土)午後3時～

講師：中西夏之(美術家)

開手：山田諭(名古屋市美術館学芸員)



ポスター



図録



会場風景

## 親子で楽しむアートの世界 遠まわりの旅

Enjoy the art world with your loved one A detoured journey

会期：2014年2月15日(土)～3月30日(日)

### 主催

名古屋市美術館、中日新聞社

### 後援

愛知県岐阜県各教育委員会、名古屋市立小中学校PTA協議会、名古屋市立幼稚園PTA協議会、名古屋市幼児教育研究協議会

### 協力

名古屋市交通局、名古屋市美術館協力会

### 材料協力

ルミノールパペイント

### 企画協力

D.D.(今村哲+染谷重里可)

### 観覧料

一般:800円、高大生:600円、小中生:無料

### 内容

日々素晴らしい出会いや別れ、苦しいこと、嬉しいことなど様々な予測がつかない出来事を経験しながら過ぎる私たちの一生を見つめ、迷路の中をさまようように進む私たちの人生の旅に譬え、人生の旅を旅するということをテーマに展覧会を構成した。名古屋市美術館の所蔵品を中心に人生の旅にまつわる作品を紹介し、会場内に、私たちの人生の旅を象徴する体験ができる、迷路のような巨大な体験型の作品が、アーティスト・ユニットD.D.によって制作された。D.D.の作品は出品作品へのオマージュにもなっており、展示されている作品と関連したD.D.の作品体験することで、より多くの感覚を刺激し、鑑賞することを促す試みでもあった。また、D.D.の作品に関連して、見るだけではなく、五感を使って感じるができるように、作品内の暗闇の空間において、空間とコラボレーションしたダンスやライブなど様々なパフォーマンスを行った。

### 関連催事

アーティストトーク

アーティスト・ユニットD.D.(今村哲+染谷重里可)が作品についてトークした。

日時: 3月2日(日)14時～

場所: 2階講堂、無料

D.D.の作品内「昼の目 夜の目」内でのパフォーマンス 要入場券  
現代舞踏 「奥触」

日時: 2月23日(日)13時～/15時～(各回約20分)

出演: 小山田魂宮時(ダンサー)

詩のパフォーマンス 「炭鉱のカナリアを食べてしまった猫の目が光る」

日時: 3月1日(土)11時10分～/14時10分～/16時10分～(各回

約20分)

出演: 村田仁(詩人)

サイレンスダンス 静けさと佇まいの身体詩

日時: 3月9日(日)11時10分～/14時10分～/15時10分～(各回約20分)

出演: タナカアリフミ(ダンサー)

ダンスパフォーマンス 天使、赤ん坊として「舞考」する

日時: 3月15日(土)11時10分～/15時10分～(各回約40分)

出演: 三輪重希子(ダンサー、プロジェクトオオヤマ所属)

ライブ 音のコラージュによるライブパフォーマンス

日時: 3月16日(日)15時30分～(約40分)

出演: CONTAGIOUS ORGASM(実験音響プロジェクト)

パフォーマンス 日常的動作から非日常を生み出すこと

《闇の住人》

闇の目を持つものがパフォーマンスし、闇の者の視点から見た世界を会場内に映像として流した。

日時: 3月22日(土)不定期で随時開催

出演: 河村るみ(アーティスト)

ダンスパフォーマンス 暗く深い森を抜けるとそこは蛍たちの舞うひらひらとした流れなのであります

日時: 3月29日(土)11時10分～/13時10分～/15時10分～(各回約15分)

出演: Kino Kugel(コマツアイ・大山夢美・三好友恵)(パフォーマー)

展覧会解説会

笠木日南子(担当学芸員)が展覧会及び出品作品について解説した。

日時: 2月16日(日)14時～(約70分)

場所: 2階講堂、無料

ボランティアによるギャラリートーク

日時: 2月19日(水)、23日(日)、26日(水)、3月2日(日)、5日(水)、9日(日)、12日(水)、16日(日)、19日(水)、23日(日)、26日(水)、30日(日)

10時30分～/13時30分～(約60分)

場所: 展覧会会場内、要入場券



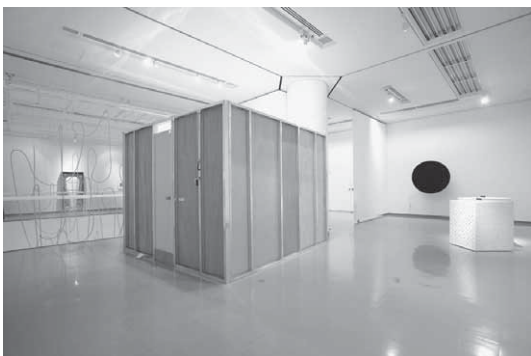
ポスター



図録



会場風景



会場風景



名古屋市美術館では、美術鑑賞の楽しさや面白さを体験できる美術館を目指して、今年度も来館者の皆さんからの多様な要望に応えられるように多彩な教育プログラムを実施しました。

一般向けには、今年度は、特別展などでの講演会や解説会に加えて、異色な企画が続きました。

開館25周年記念として開催した「上村松園」展の出品作品に関連したイベントとして、きものショー「松園美人たちの衣装—きもの着方と帯結び」や髪結い実演「美しさは髪形より—松園美人画の日本髪の魅力」、第1回中日文楽記念 ふれてみよう文楽in上村松園展」など、これまでとは視点を移して、作品のモチーフ（着物や髪結い、文楽）に焦点を合わせた企画を実施しました。

また、「はじめての美術 絵本原画の世界2013」展では、親子でも楽しめる企画として、絵本の主役たちを制作するワークショップ「こんを作ろう」と「じぶたを作ろう」を開催しました。

作家による講演会としては、「あいちトリエンナーレ2013」では、美術館の建築全体をリノベーションした青木淳（建築家）と杉戸洋（アーティスト）のグループ「スパイダース」によるギャラリー・トーク「建物公開」を行い、若者を中心として270人が参加しました。

「ハイレッド・センター：『直接行動』の軌跡」展では、特別講演会「中西夏之、ハイレッド・センターを語る！」の開催が急遽決定して、ほとんど広報が行き届かなかったにもかかわらず、ハイレッド・センター（HRC）に熱い関心を寄せる老若男女の皆さん（中西さんの世代から初めてHRCを知った世代まで）が、全国から期待を胸に集まりました。満員の会場は静かな熱気に包まれていました。

「親子で楽しむアートの世界」展では、出品作家によるアーティスト・トーク、パフォーマンスをはじめとして、現代舞踏、朗読、サイレンスダンス、ダンスパフォーマンス、音によるライブパフォーマンスなどが目白押しでした。

毎年恒例となった名古屋市美術館の学芸員による研究発表の場としての「コレクション解析学」は全5回を実施しました。

次に、子ども向けの教育普及事業としては、夏休みの恒例となった「夏休み こどもの美術館」では、「美術館の楽しみかた 番外編」と題し、名古屋市美術館の建物や館内各所に設置されている多くのイスをじっくり観察することに主眼を置いた2つのワークショップ「スケッチではっけん！」「イスのつうしんぼ」を行い、建物やイスの造形的な特徴に気づいたり、面白さを発見したりして、美術館という空間そのものに親しんでもらいました。また、目当ての展覧会を見ること以外で美術館を訪れる目的や美術館で過ごす時間のよ

さについて来館者同士に互いの考えを発表し共有しあう場にしたいとの考えから、キッズコーナーで投稿プログラム「ぼくの、わたしの、美術館の楽しみかた」を実施しました。

一方、「美術をたのしむプログラム」名古屋市美術館の「キッズの日」として実施している美術鑑賞プログラムにおいては、「子どものためのワークシート」を配布するとともに、白川公園を巡る「“おと”探検隊」（鈴木昭男の《点音in白川公園》）と「宝物（＝美術作品）を守る」ために工夫されている「“びじゅつかん”探検隊」、「アート・ウォッチング」を実施しました。

学校との連携による教育普及事業としては、平成15年度から開始された「出前アート体験」では、「名画の秘密をさぐる」「作品に託されたメッセージ」「美術から異文化を知ろう！」「アートカードで学ぼう」などのプログラムを持って、学芸員やボランティアが出前授業（全8校）を行いました。また、学校の団体見学への対応においても、ボランティアによる常設展のガイドトークを受けた児童・生徒たち（名古屋市内の小中学校を中心として11団体、736名）は充実した美術鑑賞の体験をしています。

また、昨年度から引き続いて、名古屋市教育センター研修「名古屋市美術館における鑑賞教育講座」を開催しました。

このように名古屋市美術館が積極的な教育普及事業を展開できるのは、ボランティアの活動に支えられているからです。名品コレクション展でのギャラリー・トークを基本として、「キッズの日」の美術鑑賞プログラムの企画・実施、「出前アート体験」の「アートカードで学ぼう」の支援、常設展の学校団体向けガイドトークの実施、総合案内と図書室における来館者への案内活動、ボランティア養成講座のサポートを行う教育活動など、幅広い分野で活動を行ってきました。今年度は、総計94名のボランティアが活動しました。

また、美術館の活動を支援することを目的とした美術愛好家の会である名古屋市美術館協力会では、春・秋の「美術館見学ツアー」や近郊の美術館への「美術鑑賞ミニツアー」を積極的に実施するようになりました。「作家を囲む会」（水野誠司・初美、眞島直子）を開催しました。また、名古屋を代表する版画家・吉岡弘昭にオリジナル・カレンダーの作成を委嘱して、多数の新規会員の獲得に成果を挙げました。

この他に、美術書や画集・展覧会カタログが充実した図書室の利用者も年間13,186名になっています。出版関係では、多彩で豊富な記事が好評の美術館ニュース「アートペーパー」（第93～95号）とともに、『年報』『展覧会案内』を定期刊行しました。



# 1. 一般成人対象の事業

## (1) 講演会・解説会

年月日	時刻	内 容	講 師 等	場 所	参加者
25年4月28日(日)	14時～	上村松園展講演会「上村松園一生きる姿勢を絵筆に託してー」	吉田俊英(豊田市美術館長)	講堂	250
25年5月4日(土祝)	14時～	上村松園展展覧会解説	保崎裕徳(当館学芸員)	講堂	200
25年5月19日(日)	14時～	上村松園展講演会「上村松園一きものを愛する心とその芸術ー」	長崎巖(共立女子大学教授)	講堂	250
25年5月25日(土)	14時～	上村松園展展覧会解説	保崎裕徳(当館学芸員)	講堂	199
25年6月15日(土)	14時～	はじめての美術 絵本原画の世界2013記念講演会「絵本原画の楽しみ」	有川幾夫(宮城県美術館長)	講堂	80
25年6月29日(土)	14時～	あいちトリエンナーレ2013トリエンナーレスクール2013「列島改造論2.0とナゴヤ・ソーシャルローブ・プロジェクト構想」	藤村龍至(建築家/あいちトリエンナーレ2013出品作家)、五十嵐太郎(あいちトリエンナーレ2013芸術監督)	講堂	232
25年6月30日(日)	14時～	はじめての美術 絵本原画の世界2013解説会	角田美奈子(当館学芸員)	講堂	55
25年7月6日(土)	14時～	常設企画展ボジション2013水野誠司・初美展解説会	中村暁子(当館学芸員)	常展3	18
25年7月7日(日)	14時～	常設企画展ボジション2013水野誠司・初美展作家(水野誠司・初美)によるギャラリートーク	水野誠司・初美(出品作家)	常展3	57
25年7月13日(土)	15時～	あいちトリエンナーレ2013トリエンナーレスクール2013「《へそと原爆》に見る、太陽のこどもたち」	細江英公(写真家/あいちトリエンナーレ2013出品作家)、越後谷卓司(あいちトリエンナーレ2013キュレーター)	講堂	細江氏急病のため中止
25年7月21日(日)	14時～	あいちトリエンナーレ2013まちどり「アーティストトーク:ウイット・ピムカンチャナボン」	ウイット・ピムカンチャナボン(あいちトリエンナーレ2013長者町エリア出品作家)	講堂	85
25年8月24日(土)	14時～	あいちトリエンナーレ2013まちどり「アーティストトーク:マーロン・グリフィス」	マーロン・グリフィス(あいちトリエンナーレ2013長者町エリア出品作家)	講堂	46
25年9月8日(日)	13時～	あいちトリエンナーレ2013まちどりトーク「トリエンナーレの裏側(名古屋編)」	住友文彦(あいちトリエンナーレ2013キュレーター)、武藤隆(あいちトリエンナーレ2013アーキテクト)、吉田有里(あいちトリエンナーレ2013アシスタントキュレーター)	講堂	87
25年9月14日(土)	13時～	あいちトリエンナーレ2013スポットライト「スパイダース(青木淳+杉戸洋)」	青木淳(建築家、あいちトリエンナーレ2013出品作家)、杉戸洋(画家、あいちトリエンナーレ2013出品作家)	講堂	270
25年10月25日(金)	18時～	あいちトリエンナーレ2013クローゼイングイベント「あいちトリエンナーレ2013に関するQ&Aトークショー」	五十嵐太郎(あいちトリエンナーレ2013芸術監督)、飯田志保子(国際美術展キュレーター)、山田諭(当館学芸係長)、武藤隆(アーキテクト)、越後谷卓司(映像プログラムキュレーター)、藤井明子(パフォーミングアーツプロデューサー)、田尾下哲(プロデュースオペラ演出)、水野学(プロデュースオペラプロデューサー)、菊池宏子(コミュニティ・デザイナー)、鈴木潤子(PRオフィサー)	講堂	191
25年11月10日(日)	14時～	HRC展フィルム・パフォーマンス&レクチャー「映像による〈直接行動〉」	飯村隆彦(映像作家)	講堂	93
25年11月17日(日)	14時～	HRC展解説会「ハイレッド・センターの〈直接行動〉について」	山田諭(当館学芸係長)	講堂	61
25年11月17日(日)	14時～	芸術と科学の杜事業 中高生のためのシンポジウム「アートする心」高橋龍太郎×山口晃 対談&会場トーク	山口晃(画家)、高橋龍太郎(精神科医、現代美術コレクター)、深谷克典(当館副館長)	科学館B2サイエンスホール	184
25年12月14日(土)	15時～	HRC展特別講演会「中西夏之、ハイレッドセンターを語る」	中西夏之(美術家)	講堂	200
26年2月16日(日)	14時～	「親子で楽しむアートの世界 遠まわりの旅」展覧会解説会	笠木日南子(当館学芸員)	講堂	55
26年3月2日(日)	14時～	「親子で楽しむアートの世界 遠まわりの旅」展アーティストトーク	D. D. (今村哲+染谷亞里可/本展出品作家)	講堂	60
26年3月4日(金)	13時～	「親子で楽しむアートの世界 遠まわりの旅」展担当学芸員&名古屋おもてなし武将隊と楽しむトーク	笠木日南子(当館学芸員)、豊臣秀吉&元気!(名古屋おもてなし武将隊)	企展1・2	26
26年3月4日(金)	15時～	「親子で楽しむアートの世界 遠まわりの旅」展担当学芸員&名古屋おもてなし武将隊と楽しむトーク	笠木日南子(当館学芸員)、豊臣秀吉&元気!(名古屋おもてなし武将隊)	企展1・2	12

計 2,711



中西夏之講演会



有川幾夫講演会



吉田俊英講演会



アーティストユニットD.D.のトーク

## (2)コレクション解析学

年月日	時刻	内 容	講 師 等	場 所	参加者
25年 4月14日(日)	14時～	エドワード・ルッシェ《20世紀》	竹葉丈(当館学芸員)	講堂	65
25年 6月16日(日)	14時～	ティナ・モドッティ《[メキシコ文部省壁画:統一戦線]》	笠木日南子(当館学芸員)	講堂	50
25年 8月18日(日)	14時～	ベン・シャーン《リディツェ》	角田美奈子(当館学芸員)	講堂	47
25年12月 8日(日)	14時～	村井正誠《私の履歴書》	清家三智(当館学芸員)	講堂	47
26年 2月 9日(日)	14時～	オシップ・ザツキン《扇を持つ女》	保崎裕徳(当館学芸員)	講堂	68

計 277

### コレクション解析学第1回

日時: 4月14日(日)午後2時～

作品: エドワード・ルッシェ《20世紀》1988年

演題: 「サイン: 浮遊する言葉と意味」

講師: 竹葉丈(学芸員)

内容: 《20世紀》は、ワイド・スクリーンを想わせる横長の画面に、暗雲がたなびく海上を行く客船とインポーズされた言葉が印象的な作品である。作家のエドワード・ルッシェは、1950年代後半、新たな抽象絵画を展開しつつあったロサンゼルスでグラフィック・デザインと写真技術を学び、シュヴィタースの作品から写真をコラージュする手法に目覚め、ジャスパー・ジョーンズらの作品に触れて、ファイン・アートの表現を目指すようになった。当初は、〈スタンダード・オイル〉や〈20世紀FOX〉のトレード・マークを“トレース”していたが、1960年代後半になると、観る者に自由な発想を誘発する言葉が、また1980年以後には、暗示的意味合いが込めた“光(の効果)”が描きこまれた。

パノラマ画面の中で浮かび上がり、逆光で照らし出され

る文字は、「日々の生活のノイズから派生」採用されたもので意味はなく、断片として観る者の“忘却と回想”を喚起する。イメージと言葉によって通俗的なノスタルジーと個人的な情趣を混交させるルッシェの表現について、アメリカ西海岸の特殊な文化状況を踏まえながら、1960年代のポップ・アートとの差異、ハリウッドや映画に見られるイメージの幻想、さらには記号表現と記号内容の齟齬から派生する効果について検証した。

### コレクション解析学第2回

日時: 6月16日(日)午後2時～

作品: ティナ・モドッティ《[メキシコ文部省壁画:統一戦線]》1928年頃

演題: 「ディエゴ・リベラ作《メキシコ文部省壁画記録写真》から見えてくること」

講師: 笠木日南子(学芸員)

内容: メキシコの壁画家ディエゴ・リベラ(1886-1957)は、1923年から28年にかけてメキシコ文部省の建物に、総面積

1586㎡、パネル総数は239点という、リベラにとっても、また20世紀においても最大の壁画プロジェクトを手がけた。その壁画の記録写真を写真家のティナ・モドッティ(1896-1942)が撮影している。壁画の記録写真として撮影された写真は、壁画のイメージを知らせるために『メキシカン・フォークウェイズ』などの雑誌にも掲載され、それらの写真から壁画の内容、完成当初の壁画の様子、また建物のどういった構造の壁面に描かれているかということを見ることができる。また、記録写真とはいえ、モドッティが壁画の内容を深く理解し共感していたことに加え、彼女の写真家としての見方が反映され、彼女ならではのクローズアップやトリミングが施されることにより、モチーフがより生き生きと、また壁画の内容がよりドラマチックに見えてくる。壁画の内容について解説し、モドッティがどのようにそれを写し出したのか考察した。

### コレクション解析学第3回

日時: 8月18日(日)午後2時～

作品: ベン・シャーン《リディツェ》1942年

演題: プロパガンダの届け先

講師: 角田美奈子(学芸員)

内容: 《リディツェ》は、1942年6月10日に起きたナチス・ドイツによるリディツェ村の虐殺破壊行為を題材としている。シャーンはこの頃、アメリカ合衆国の戦時情報局で仕事をしており、同局が同年に制作したポスター《これがナチの残虐だ》の原画として《リディツェ》は制作された。

リディツェはブラハの北西にあり、事件当時、リディツェのあった旧チェコスロバキアのボヘミア地方と隣接するモラビア地方はドイツの保護領となっていた。リディツェの虐殺破壊行為の経緯と背景を紹介するとともに、アメリカ国民に戦争への協力を呼びかけることを目的として制作されたポスターの原画をシャーンが芸術としての普遍性を損なうことなくいかに造形したかについて考察し紹介した。

### コレクション解析学第4回

日時: 12月8日(日)午後2時～

作品: 村井正誠《私の履歴書》1979年

演題: 作品で語る足跡

講師: 清家三智(学芸員)

内容: 村井正誠(1905-1999)は、日本における抽象絵画のパイオニア的存在の1人として活躍した。抽象絵画は幾何学形態のみによって構成された理知的なもの、人間の内面や精神性を情動的に訴えたものとの2通りに大別されるが、洗練された鮮やかな色彩と太い黒線の形態とによって構成された村井の作品には、そのどちらにも当てはまらない独特のユーモアや温かさが感じられる。複数存在する《私の履歴書》を比較しながら、各時期における画家の関心や表現方法における創意工夫を読み取り、“人のいる抽象”の実現を目指した画家の軌跡を追った。

### コレクション解析学第5回

日時: 2月9日(日)午後2時～

演題: 「彫刻家たちの1920年代」

作品: オシップ・ザツキン《扇を持つ女》1923年

講師: 保崎裕徳(学芸員)

内容: ヴィテブスク(ベラルーシ)に生まれたオシップ・ザツキン(1890-1967)は、1909年にパリに出て、同郷のシャガールや、ブランクーシ、ピカソ、モディリアーニらと交友しながら研鑽したエコール・ド・パリの一員である。1910年代、彫刻の分野ではアフリカ美術や工業製品に刺激を受けて「かたち」の実験と革新が急速に進み、ザツキンもパリに出てしばらくして後、1912-13年頃からプリミティブで幾何学的に単純化された形態を追求するようになった。第一次大戦の中断を経て、1918年から1925年頃まで、ザツキンは木や石の直彫りを基本として、幾何学的に再構成された人体彫刻の制作を続けた。《扇を持つ女》はこの時代の典型的作例である。その後、ザツキンの作品は自由度と造形的な軽さを増し、次第に思想や詩情、故郷のアイデンティティなどが造形表現に盛り込まれるようになるが、《扇を持つ女》には、後年のザツキン様式を特徴づけるディテール(本来凸面である部分を凹面に置き換え、表面に波打つようなリズムと虚の神秘性を与える)が、未熟ながら野心的に採り入れられていると見ることもできる。こうしたザツキンの作風の変遷を、1910年代および1920年代の主要な彫刻家たちの傾向とあわせて紹介し、影響関係を探った。

## (3)コンサート

年月日	時刻	内 容	演 奏 者 等	場 所	参加者
25年6月21日(金)	15時～	ギター演奏	アレクサンドル・ガラガノフ	常展3	—
25年6月30日(日)	15時～	ギター演奏	アレクサンドル・ガラガノフ	常展3	—
25年7月7日(日)	15時～	ギター演奏	アレクサンドル・ガラガノフ	常展3	—
25年7月12日(金)	15時～	ギター演奏	アレクサンドル・ガラガノフ	常展3	—
25年7月20日(土)	15時～	ギター演奏	アレクサンドル・ガラガノフ	常展3	—
25年7月20日(土)	14時～	「絵本原画の音楽」	野村誠(作曲家、ピアニスト、鍵盤ハーモニカ奏者)	展覧会場	—
25年10月13日(日)	12時30分～	「ナゴヤまちかどアンサンブル」	愛知県立芸術大学サクソフーンアンサンブル(4名)	地階ロビー	350
25年10月13日(日)	13時30分～	「ナゴヤまちかどアンサンブル」			
25年10月13日(日)	14時30分～	「ナゴヤまちかどアンサンブル」			

計 350

※「ナゴヤまちかどアンサンブル」以外は、座席を用意してのコンサート形式とは異なり、会場内を移動しながら鑑賞してもらうスタイルをとった。そのため参加者の確定が難しい。



「はじめての美術 絵本原画の世界2013」展コンサート

名 称 絵本原画の音楽  
 日 時 7月20日(土)午後2時～3時  
 演 者 野村誠(作曲家、ピアニスト、鍵盤ハーモニカ奏者)  
 会 場 はじめての美術展会場、無料(展覧会入場券を要する)  
 内 容 展覧会場において作品を見ながらそれに即した鍵盤ハーモニカによる即興演奏を行い、作品に接することから生まれる感興を表現としてかたちにする手法の一例を紹介した。

ポジション2013 水野誠司・初美展—フィンランド・ポートフォリオ—ギター演奏

日 時 6月21日(金)、30日(日)、7月7日(日)、12日(金)、20日(土)  
 いずれも午後3時～  
 演 奏 アレクサンドル・ガラガノフ(ギター奏者)  
 会 場 常設展示室3(展覧会入場券が必要)  
 内 容 展覧会の関連事業として、展示室内でギター演奏を行った。北欧をテーマとした展覧会のイメージに合わせた演奏が行われた。

ナゴヤまちかどアンサンブル

日 時 10月13日(日)午後0時30分～、午後1時30分～、午後2時30分～  
 演 奏 愛知県立芸術大学サクソフーンアンサンブル  
 曲 目 サクソフーン四重奏曲よりIV / J. B. サンジュレー、アンダンテ / E. ボザ、ガブリエル・オーボエ / E. モリコーネ ほか  
 会 場 地下1階ロビー、無料  
 のべ参加者数 350名



(4)その他

①名古屋市美術館開館25周年「上村松園」展  
 第一回中日文楽記念ふれてみよう文楽in上村松園展

日 時 5月1日(水)午後1時30分～(約30分)  
 出 演 吉田幸助、吉田玉誉、吉田玉路  
 会 場 サンクンガーデン(事前申込制、150名)  
 参加者数 150名



きものショー

日 時 5月16日(木)午後1時20分～(約40分)  
 演 題 「松園美人たちの衣装—きもの着方と帯結び」  
 主 催 民族衣裳文化普及協会  
 会 場 地下1階ロビー(無料)  
 参加者数 150名



髪結び実演

日 時 5月31日(金)午後2時～(約90分)  
 演 題 「美しさは髪形より—松園美人画の日本髪の魅力」  
 講 師 京谷武弘(京屋かつら代表取締役)  
 会 場 2階講堂(無料、定員80名、先着順)  
 参加者数 130名



## ②「はじめての美術 絵本原画の世界2013」展

### ワークショップ

**名 称** こんを作ろう  
**日 時** 6月22日(土)  
1回目:午前10時~12時  
2回目:午後2時~4時  
**講 師** 岡庭智子(アーティスト)  
**会 場** 2階講堂  
**参加費** 500円  
**対 象** 小学校5年生以上  
**参加者数** 1回目…19名/2回目…20名  
**内 容** 著作権者等関係者の許諾を得て作成したオリジナルキットを用いて、原画出品の絵本『こんとあき』に登場する「こん」の手のひらサイズの布製マスコット人形を制作した。一連の作業を通して平面(絵)から立体物を作成する手法の一端を学び、体験する機会とした。

**名 称** じぶたを作ろう  
**日 時** 7月6日(土)  
午前10時~午後3時(1時間の休憩を含む)  
**講 師** 井垣理史(アーティスト)  
**会 場** 2階講堂  
**参加費** 500円  
**対 象** 小学校5年生以上  
**参加者数** 18名  
**内 容** 著作権者等関係者の許諾を得て作成したオリジナルキットを用いて、原画出品の絵本『しょうぼうじどうしゃじぶた』に登場する「じぶた」を木製ブロックなどで手のひらサイズで制作した。一連の作業を通して平面(絵)から立体物を作成する手法の一端を学び、体験する機会とした。

## ③ハイレッド・センター展

### フィルム・パフォーマンス&レクチャー

**プログラム** 「視姦について」「Ai」「リリパット王国舞踏会」  
「DADA62」  
**レクチャー** 「映像による〈直接行動〉」  
**日 時** 11月10日(土)午後2時~  
**講 師** 飯村隆彦(映像作家)  
**会 場** 2階講堂(無料、定員180名、先着順)  
**参加者数** 93名

## ④親子で楽しむアートの世界 遠まわりの旅展

### D.D.の作品内「昼の目 夜の目」内でのパフォーマンス

すべて要入場券

### 現代舞踏 「奥触」

**日 時** 2月23日(日)午後1時~午後3時~  
(各回約20分)  
**出 演** 小山田魂宮時(ダンサー)

**参加者数** 50名/60名

**内 容** 闇の中で現代舞踏の動きの気配を感じるパフォーマンス。パフォーマンス終了後、会期終了まで、録音したパフォーマンスの息遣いや足音などをバックミュージックとして闇の空間で流した。

### 詩のパフォーマンス 「炭鉱のカナリアを食べてしまった猫の目が光る」

**日 時** 3月1日(土)午前11時10分~/午後2時10分~/午後3時10分~(作品内を随時移動しながら行った)/午後4時10分~(各回約20分)

**出 演** 村田仁(詩人)

**参加者数** 31名/43名/34名

**内 容** 闇の空間の中で詩を読むパフォーマンスを3回と、告知せずに「昼の目夜の目」内各地で詩を読むパフォーマンスを1回行った。パフォーマンス終了後、会期終了まで詩のパフォーマンスを録音したものをバックミュージックとして闇の空間で流した。

### サイレンスダンス 静けさと佇まいの身体詩

**日 時** 3月9日(日)午前11時10分~/午後2時10分~/午後3時10分~(各回約20分)

**出 演** タナカアリフミ(ダンサー)

**参加者数** 57名/60名/34名

**内 容** 出品作品のマックス・クリンガーの《手袋》シリーズに触発され、蓄光塗料を塗った手袋を使い、闇の中で手袋が浮き上がるなどの展覧会とコラボレーションしたダンス。

### ダンスパフォーマンス 天使、赤ん坊として「舞考」する

**日 時** 3月15日(土)午前11時10分~/午後3時10分~(各回約40分)

**構成・振付・出演** 三輪亜希子(プロジェクト大山所属)

**衣 裳** 坂本千代

**音 楽** 武田直之

**参加者数** 50名/83名

**内 容** D.D.の作品「舞考」の言葉と動き、さらに出品作品のモチーフからインスピレーションを得た動きを取り入れ、天使と赤ん坊が空間の中で無邪気に動き回る様子を創作したダンス。

### ライブ 音のコラージュによるライブパフォーマンス

**日 時** 3月16日(日)午後3時30分~(約40分)

**出 演** CONTAGIOUS ORGASM(実験音響プロジェクト)

**参加者数** 104名

**内 容** 日常の中の様々な音をまじえた実験的な音楽のライブパフォーマンス。



パフォーマンス 日常的動作から非日常を生み出すこと

《闇の住人》

日 時 3月22日(土)不定期で随時開催  
出 演 河村るみ(アーティスト)  
内 容 闇の目を持つ「闇の住人」が会場内を移動しながらパフォーマンスし、闇の者の視点から見た世界を赤外線カメラで録画し会場内に映像として流した。

ダンスパフォーマンス 「暗く深い森を抜けるとそこは蛍たちの舞うひらひらとした流れなのであります」

日 時 3月29日(土)午前11時10分～／午後1時10分～／午後3時10分～(各回約15分)  
出 演 Kino Kugel(コマツアイ・大山夢美・三好友恵)(パフォーマー)  
参加者数 60名／63名／90名  
内 容 闇の空間で光った衣装を身に着けた3人のダンサーが音楽に合わせて踊る創作ダンス。



三輪亜希子ダンスパフォーマンス

## 2. 子ども対象の事業

### (1) 学校休業日の体験活動の推進

平成15年度から、長期休業期間を除く学校休業日(土日祝)を対象に、美術や美術館に親しむプログラムを継続して実施している。これは名古屋市教育委員会が平成22年度まで推進してきた「なごやっ子教育推進計画」の後継として策定した「名古屋市教育振興基本計画」の一環で行うものである。平成25年度は年間6回のプログラムを開催した。

#### ① こどものためのワークシート

**日時** 開館中の土曜・日曜・祝日および学校長期休暇期間(116日間)

**対象** 小中学生

**延べ実績** 1,996枚

**参加方法** 当日常設展入口で随時受付

**内容** 名品コレクション展Ⅰ～Ⅲの各展示内容にあわせて展示作品をじっくり鑑賞するためのヒントやクイズを載せた「こどものためのワークシート」を配布し、取り組んでもらうことで作家や作品への理解を深めた。

#### ② “おど”探検隊

**日時** 1回目…5月25日(土) / 2回目…11月30日(土)  
いずれも午前10時～正午

**対象** 小中学生とその保護者

**参加者数** 1回目…22名 / 2回目…24名

**スタッフ** (学芸員)清家三智  
1回目…ボランティア6名  
2回目…ボランティア6名

**内容** 目には見えない“音”を意識するための練習を参加者全員と一緒に行った後で、2009年に設置された鈴木明男の作品《点音in白川公園》を体験しながら、身近な存在である“音”について考えを深めることをねらいとしたプログラム。意識して耳をすますことで、音の動きや響き方、距離感などを聞きとるだけでなく、「見ること」と「聞くこと」のちがいに気づいたり、空間の広さ／狭さやその日の気候、身の回りの環境などについて五感を使って丁寧に感じ取る機会となり、参加者に白川公園という場の面白さや魅力に気づいてもらうことができた。

#### ③ “びじゅつかん”探検隊

**日時** 1回目…6月29日(土) / 2回目…2014年1月25日(土)  
いずれも午前10時～正午

**対象** 小学生

**参加者数** 1回目…24名 / 2回目…24名



**スタッフ** (学芸員)清家三智

1回目…ボランティア6名  
2回目…ボランティア9名

**内容** 美術館は何のための場所か、館内を探検しながら自分たちで見て、聞いて、考えを掘り深めていくプログラム。前半は単なるバックヤードツアーではなく、館内の設備をくわしく観察することから「どうして美術館には開かない窓しかないのか」、「火事になったらどうするのか」、「なぜ収蔵庫の鍵はこんなにたくさんあるのか」などの疑問を参加者に投げかけ、館内で働いている人々の役割を考えながら学芸員と話し合う活動を通して、「宝物(=美術作品)を守る」という美術館の社会的役割への理解を深めた。

#### ④ アート・ウォッチング

**日時** 1回目…11月2日(土) / 2回目…2014年2月22日(土)  
いずれも午前10時～正午

**対象** 小学生

**参加者数** 1回目…19名 / 2回目…15名

**スタッフ** (学芸員)清家三智  
1回目…ボランティア10名  
2回目…ボランティア10名

**内容** (1回目)参加者全員で常設展に恒常展示してあるフランク・ステラの作品《説教》を鑑賞し、パーツひとつひとつの形の面白さや複雑さに注目した。その後グループに分かれて常設展の作品をじっくり観察し、平面・立体問わず、作品の中に見つけた面白い形・変な形をたくさん採集して紙にメモ(スケッチ)した。メモした形の中から、最も気に入ったものを白い画用紙に書き写し、カットアウトの要領で切り出したものを見ながら、どの作品のどの部分の形をとらえたのか

ループで発表があった。

(2回目)常設展で紹介している作品の一部をシルエットに仕立てた画像を用意しグループ毎に1枚渡す。「どの作品のどの部分か」よく観察し、探し当てたところでボランティアによる作品のギャラリートークを体験した。その後“不思議な形をさがす”をテーマに、常設展の作品を見ながら気になった形をひたすらスケッチをした。描き溜めたメモは最後に色画用紙で表紙をつけてノート状にまとめ、お土産とした。

美術作品を楽しむ際の基本的な造形要素として色と形が挙げられるが、同じように見えているはずなのに「色に比べると、こども達は形に言及することが少ない」という意見や「形の面白さにどう気づかせたら良いか」という声が、運営に関わるボランティアから投げかけられ課題となっていた。プログラムを検討する中で、正円や長方形など決まった形以外のものは言葉で説明するのが難しいのでは?と考え、よく見た形を絵に描いて示すことでコミュニケーションをとり、仲間同士で形の面白さを共有することをねらいとした。

## (2)夏休みこどもの美術館

平成25年度は「美術館の楽しみかた 番外編」と題し、普段、来館者が気に留めることの少ない、美術館の展示室以外の場所やものに目を向けることをねらいとした。

具体的には、名古屋市美術館の建物や館内各所に設置されている多くのイスをじっくり観察することに主眼を置いて2つのワークショップを行い、建物やイスの造形的な特徴に気づいたり、面白さを発見したりして、美術館という空間そのものに親しみや魅力を感じてもらうことに重きを置いた。また、目当ての展覧会を



見る以外で美術館を訪れる目的や美術館で過ごす時間のよさについて来館者同士に互いの考えを発表し共有しあう場にしたとの考えから、キッズコーナーで投稿プログラムを実施した。

### A.「スケッチではっけん！」

日時 ①8月17日(土)、②8月24日(土)  
いずれも午前10時～午後4時  
講師 井村正和(建築家)、渡辺一生(アーティスト)  
対象 小学4年生～大人  
参加費 500円  
定員 各回15名  
参加者数 21名(2日間のべ)  
内容 参加者全員で美術館の中を歩き回って建物をじっくり観察し、同じ場所でも見下ろしたり見上げたり視点を変えることで印象が異なることに気づいた後、自分で「面白い」「美しい」「変わっている」など色々な観点から気になるものを探し、見つけたらよく観察し、写真のスナップショットのようにスケッチすることをひたすら繰り返した。

大半の小学生にとって建物は“入る”ものであり、まじまじと“見る”対象として意識する機会は少ない。身体を使って視点を変える体験をすること、自分の見たものをじっくり観察し見えるままに描く体験をくり返すことで、自分の目で見どころを発見できるようになり、最終的には建築物のさまざまな面白さに気づき、“見る”ことを楽しむことができた。プログラム中に20数ページあったスケッチブックの用紙、表・裏の全てを使い切るまで描いた参加者もいた。

準備段階における講師との打合せでは、近年の学校では屋外スケッチや時間の制限を設けずに絵を描く機会が減っていること、刃物の正しい使い方などを学ぶ機会がないことを憂慮する声があった。これを踏まえ、本ワークショップではスケッチ用鉛筆を1人1本用意し、講師の指導の下、参加者がカッターナイフの正しい持ち方、鉛筆の削り方を学ぶ時間を設けた。





## B.「イスのつうしんぼ」

**日 時** ① 8月21日(水)午前10時～12時  
 ② 8月21日(水)午後2時～4時  
 ※ 8月22日(木)は午前・午後とも参加者が集まらず中止とした。

**対 象** 小学4年生～大人

**参加費** 無料

**定 員** 各回15名

**参加者数** 12名(2回のべ)

**内 容** まず、講堂のステージに美術館内で使用しているイス5種を並べ、見た目と座り心地の両方から比較・観察し、それぞれに評価をつけた。その後、館内を散策しながらロビー、図書室、吹き抜けホールなどにあるイスを観察して気づいた特徴をメモし、設置場所とイスとの相性について考え、意見交換を行った。

「イスなんて座れば何でもいい」という考えもあるが、“見る”ことを楽しむ場所として、美術館ではイスも見て楽しんでもらいたいとの考えから本プログラムを企画した。また見るだけでなく、座るといふ行為に伴う身体感覚にも注目し、見た目からどんな座り心地だと思えるか、あらかじめ想像しておき、実際に座ったときの感触との違い／一致を確かめるなどの体験も行った。



## C.「ぼくの、わたしの、美術館の楽しみかた」

**期 間** 8月10日～9月1日の間、随時参加可能

**対 象** 来館者全員

**内 容** 地階キッズコーナーに用意した用紙に“〇〇するのを楽しみに美術館へ来ている”、“この美術館の△△が気に入っている”、“美術館では□□したい”など、単に展示を見る以外に楽しみにしていることや、お気に入りの過ごし方などを記入後、専用の箱へ投函または美術館宛に郵送してもらい、届いた意見はキッズコーナーで掲示した。

## (3)芸術と科学の杜

「芸術と科学の杜」とは、名古屋市美術館・科学館が連携して市民の豊かな感性と創造力を育む魅力ある事業を継続実施するとともに、白川公園周辺の文化施設や地域とも協力して連携の輪を広げることで「芸術と科学を中心にさまざまな文化が融合し、新しい文化を生み出すまち」の形成をめざすものである。

この事業目的実現のため、地元商店街や周辺の施設、関係機関からなる「芸術と科学の杜連携推進会議」を平成24年5月に設立し、地域連携事業を企画実施している。

その事業の一つとして、サイエンス&アートフェスティバルを開催し、アート大会を実施した。また、中高生のためのシンポジウム「アートする心」と題して精神科医の高橋龍太郎氏と画家の山口晃氏の対談を行った。



### ア アート大会

**日 時** 11月2日(土)・3日(日・祝)午前10時～午後4時

**場 所** 白川公園

**参加者数** 3,700人

**内 容** ●巨大アートを作ろう  
 ●不思議なフィルターで宝探し  
 ●スタンプラリーで彫刻を探そう!



スタンプラリー



不思議なフィルター



巨大アート

中高生のためのシンポジウム  
「アートする心」  
高橋龍太郎 × 山口晃  
(美術作家) (画家)  
対談&会場トーク

種別限定で先行  
日本現代美術の旗手  
コレクターでもある高橋龍太郎氏と、  
芸術の観点から芸術家まで視野を広げ、  
個性豊かな作品を制作する山口晃氏に、  
アートの持つ魅力  
語っていただきます。

高橋龍太郎 山口晃

入場 無料  
とき：平成25年11月17日(日)  
13:30受付/14:00~16:00  
会場：名古屋科学館 生命館地下2階 サイエンスホール  
(名古屋科学館 生命館地下2階 サイエンスホール)  
先着300名  
内容：●14:00~15:30 山口晃氏による講義  
●15:30~16:00 高橋龍太郎氏、山口晃氏、中高生による会場トーク  
(後の懇話会)

実行：名古屋美術館館長(学芸員) 深谷 寛典

〒466-8601 名古屋科学館 生命館地下2階 サイエンスホール  
〒466-8601 名古屋科学館 生命館地下2階 サイエンスホール  
名古屋科学館 生命館地下2階 サイエンスホール  
名古屋科学館 生命館地下2階 サイエンスホール

名古屋美術館  
TEL:052-212-0001  
FAX:052-212-0005

ESD



シンポジウム

### イ 中高生のためのシンポジウム「アートする心」

日時 11月17日(日)午後2時~午後4時  
場所 科学館 生命館地下2階サイエンスホール  
参加人数 184人  
内容 第一部

- 山口晃氏による講義
  - 高橋龍太郎氏と山口晃氏による対談
- 第二部
- 高橋龍太郎氏、山口晃氏、中高生によるトーク  
&会場トーク

## 3. 学校対象事業

### (1)ボランティアによる学校団体向けガイドトークの実績

平成25年度学校団体受入

No.	日時	曜日	団体名	見学者数	引率者数	対応ボランティア
1	6月19日	水	船方小学校	106	3	10
2	6月21日	金	第一学院高等学校(通信制)	15	2	3
3	6月28日	金	飯田小学校6年生	67	3	7
4	9月27日	金	極楽小学校6年生	87	3	9
5	10月4日	金	植田小学校6年生	113	3	6
6	10月23日	水	岩塚小学校特別支援学級4~6年生	4	2	1
7	10月24日	木	太子小学校6年生	63	2	8
8	11月13日	水	笠東小学校4年生	73	3	9
9	12月3日	火	太子小学校4年生	84	3	9
10	12月18日	水	菊住小学校5年生	50	3	6
11	1月29日	水	旭丘小学校4年生	74	2	9
計				736	29	77



## (2)アートカード貸出実績

アートカードは、名古屋市美術館の所蔵作品の中から60点を選び、はがき大の複製図版に仕立てた鑑賞学習用補助教材である。名古屋市立の小中学校に対しては各区に設けた保管校を通して、それ以外の学校・団体には美術館から直接貸出を行い、鑑賞学習の普及に努めている。

平成25年度 アートカード保管校一覧

区	学校名	担当の先生	ケース数	保管ケース番号
千種区 東区	東山小	塚本 雅子	3	1、2、3
				4、5、6
北区	飯田小	山崎 美佳	4	7、8、9、10
西区	榎小	水野 由貴	4	11、12、
	平田中	秋田 玲美		13、61
中村区	笹島中	川松 仁子	3	14、15、16
中区	新栄小	滝 純	3	17、18、19
昭和区	駒方中	高橋 幸夫	3	20、21、22
瑞穂区	萩山中	水谷 恵美	3	23、24、25
熱田区	大宝小	永峯 亮	3	26、27、28
中川区	はとり中	松下 泰久	4	29、30、
	昭和橋中	鬼頭 沙弓		31、33
港区	港明中	木村 雄介	3	34、35、36
南区	柴田小	辻本 哲也	4	38、39、40、41
守山区	瀬古小	原 敏史	4	42、43、44、45
緑区	太子小	中野 幸代	5	46、47、48、49、50
名東区	上社中	小林 弘倫	4	51、52、53、54
天白区	表山小	宮地 千加	4	55、56、57、58

平成25年度 美術館からの直接貸出実績

No.	学校・団体名	期間	ケース数
1	愛知工業大学情報電子専門学校	5月1日－5月17日	1
2	愛知県立岩倉総合高校	5月14日－6月1日	1
3	(市内)松原小トワイライトスクール	5月17日－6月8日	1
4	浜松市立光明小学校ほか	7月1日－7月23日	1
5	損保ジャパン東郷青児美術館	7月25日－7月31日	1
6	刈谷市立かりがね小学校	10月12日－10月26日	1
7	(市内)稲生小学校	10月2日－12月17日	2
8	名古屋芸術大学大学院	1月7日－1月28日	1
9	教育委員会指導室	1月16日－2月28日	1
10	学校法人河合塾 河合塾美術研究所	1月17日－2月15日	1
11	常滑市立三和小学校	3月1日－3月16日	1

計11件、12セット貸出

平成25年度 アートカード保管校別貸出実績一覧

区	貸出先	ケース数	貸出期間
千種	若水中学校	1	1月－3月
北	味鏡小学校	2	12月9日－12月16日
西	平田中学校	1	9月17日－9月27日
中村	アイデアいっぱい楽しい授業づくり講座	3	7月30日－8月5日
中	正木小学校	2	9月10日－9月19日
熱田	船方小学校	1	10月－12月
中川	西前田小学校	1	年間通じて使用
	山王中学校	1	2013年3月－7月
	昭和橋中学校	1	11月
港	小碓小学校	1	2月25日－3月10日
守山	大森小学校	4	9月23日－10月4日
	西城小学校	1	2月27日－3月10日

区	貸出先	ケース数	貸出期間
緑	太子小学校	4	6月27日－7月2日
	太子小学校	2	9月13日－9月20日
	太子小学校	2	10月11日
	太子小学校	2	10月25日
	太子小学校	1	11月27日－12月2日
	太子小学校	2	12月2日
	桶狭間小学校	2	12月4日－3月28日
	太子小学校	2	12月9日
	(天白区)植田小学校	2	1月10日－1月31日
天白	表山小学校	3	6月19日

計22件、41セット貸出

### (3)出前アート体験

#### ①天白区・表山小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう  
日 時 6月19日(水) 9:50~10:35 / 10:50~11:35 / 11:45~12:30  
場 所 各クラス教室  
対象学年 5年生 3クラス90名  
講 師 (学芸員)清家三智  
スタッフ (ボランティア)6名  
授業内容

クラス毎に児童を6つのグループに分け、それぞれに1名のボランティアが付いてサポートしながら、以下の活動を行った。

#### 1) [ウォーミングアップ] たんていゲーム・3つのヒント

学芸員が伝える、ある作品の特徴を示したヒント(最大3つまで)をよく聞いて、児童はどの作品(カード)のことを指しているのか、場を広げられたカードをよく観察して正解をさがす。

#### 2) 共通点をさがそう

60枚のアートカードを2つの束に分け、よく切ってから図柄が見えないように伏せる。回答する順を決める。それぞれの山から1枚ずつめくって図柄をよく観察し、両方に共通する特徴(題材、色、形、季節、など)をさがして発表する。グループの皆が納得すれば、次の問題(回答も次の人)へ移る。ひとりで答えを出すのが難しくければ、グループ全員で考えてみる。

#### 3) ほかのアンテナ、わたしのアンテナ

60枚のアートカードを図柄が見えるように机の上を広げ、よく観察した後、各自「気になる一枚」を選ぶ。作品のどんなどころが、どのように気になるのかを順に、できるだけ詳しく発表しあう。

以上、3つの活動を通して、一つのことを丁寧に観察すること、同じものを見ていても人によって見方や捉え方が異なることを知り、視野を広げた上で改めて自分の見方や捉え方を認識し、自信をもってもらうことを目的とした。

#### ②中川区・野田小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう  
日 時 9月25日(水) 9:50~10:35 + 10:50~11:35 (2時限1授業)  
場 所 体育館  
対象学年 2年生 3クラス79名  
講 師 (学芸員)角田美奈子  
スタッフ (ボランティア)11名  
授業内容 名古屋市美術館を例にして美術作品と美術館について紹介したあと、各クラス3つ、計9つのグループに分かれて、「図画工作」の指導要領に

記された目標(主に、[共通事項]、ア自分の感覚や活動を通して、形や色、組合せなどの感じをとらえること。イ形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。)に配慮した2つの課題「夏の日・冬の日」と「挿絵をつけよう」に取り組んだ。

1時限目に行った「夏の日・冬の日」は、カードの図柄に親しみ、良く見ることを促すための導入の活動であり、60枚の全カードから各自がそれぞれ夏と冬を感じるカードを1枚ずつ選び、選択の理由を述べたあと、寒暖計ゲームの要領でそれぞれが選んだカードを最も暑いと感じるものから最も寒いと感じるものにグループで話し合いながら順に並べるところまでを行った。

2時限目は「挿絵をつけよう」を行い、あらかじめ用意された言葉(文章)にふさわしい内容を持つカードを60枚のカードのなかから選ぶことを通して、児童ひとりひとりの想像力を刺激するとともに、グループ活動のなかで互いの発想を共有し、異なる感覚や意見への理解と共感を育む機会とした。

用意した文章は下記の通りであり、下線をつけた7つの言葉または文章に対してカードを選んだ。

- 「①わたしは ②友だちの家に 行きました。  
③町を出て、④山のなかを行くと、  
⑤たくさんの鳥が とんでいました。  
⑥友だちは家で わたしを まっていました。  
その夜、⑦わたしは ゆめを 見ました。」

これらの課題は、既成のイメージに意味を汲み取る活動であるとともに、自分のなかにあるイメージを既成のイメージによって表現することを体験する活動である。

#### ③西区・稲生小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう  
日 時 10月2日(水) 10:50~11:35 / 11:45~12:30  
場 所 体育館  
対象学年 2年生 3クラス86名  
講 師 (学芸員)保崎裕徳  
スタッフ (ボランティア)9名  
授業内容

児童を8グループ(5~6名)に分け、それぞれのグループにスタッフ1、2名がつき、以下の活動を行った。

#### ①記憶力ゲーム

大型スクリーンに1枚の絵を投影し、1分ほど観察して何が描いてあるか覚える。映像を消してから、「○○はどんな色でしたか？」などと質問し、グループで答えを相談する。

#### ②見つけてみよう

アートカード60枚の中から、一人ずつ順番に

テーマに合ったカードを選ぶ。テーマは「色が素敵なカード」「作者の気持ちが伝わってくるカード」。一人ずつ選んだ理由を発表する。

- ③個人の見方・感じ方が文字として残るように、「作者の気持ちが伝わってくるカード」について、「何が描いてあるか」「どんな気持ちが伝わってきたか」を紙に書き留めた。

#### ④名東区・藤が丘小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう  
日 時 10月16日(水) 9:40~10:25 / 10:40~11:25 / 11:40~12:25  
場 所 各クラス教室  
対象学年 3年生 3クラス99名  
講 師 (学芸員)清家三智  
スタッフ (ボランティア)6名  
授業内容

クラス毎に児童を6つのグループに分け、それぞれに1名のボランティアが付いてサポートしながら、以下の活動を行った。

- 1) [ウォーミングアップ] たんていゲーム・3つのヒント

学芸員が、ある作品の特徴を伝えるヒント(最大3つまで)をよく聞いて、児童はどの作品(カード)のことを指しているのか、場に広げられたカードをよく観察して正解をさがす。

- 2) 分類ゲーム

アートカードを、学芸員から出されるテーマに沿って分類する。分類に迷ったものがあれば、グループ内で分類の基準を話し合っ

- て決める。  
(分類のテーマ例)  
①描かれている題材…ヒト/動物/風景/それ以外、など  
②季節や時間…朝/昼/夕/夜[または春/夏/秋/冬]など(分類不可もあり得る)

以上2つの活動から、一つのを丁寧に観察するとともに、分類という作業を通して作品の中に「どんなもの」が、「どのように」描かれているかを言葉で確認し、似たもの同士をグループ化した。これは人間の知性の働きに準じた活動で、こどもたちは日常生活の中で蓄えた知恵をフル稼働して自然と分類の作業に集中し、楽しむことができた。ただ漫然と見るのではなく、意識しながら見ることを習慣づけてもらうことをねらいとした。

#### ⑤緑区・鳴子小学校

プログラム名 名画の秘密をさぐる  
日 時 11月5日(火)13:45~14:45  
場 所 多目的室  
対象学年 6年生 2クラス49名

講 師 (学芸員)深谷克典

授業内容 名画の面白さ、楽しさ、見方などについて、ピカソとダ・ヴィンチの作品を中心に紹介した。ピカソについては、時代による作風の大きな変化について、スライドを使って説明しながら、優れた作品か否かは必ずしも技術の巧拙を基準にするのではなく、むしろ着想の自由さや斬新さが高く評価されることを説いた。また世界一有名な絵画、《モナリザ》の画面の中にひそむ、様々な不思議な点を紹介した。

最後に名古屋市美術館の代表作《おさげ髪の少女》と《モナリザ》を比較して、作風と個性の違い、時代による様式の変化について説明し、さらに本物と偽物の区別について触れて、両者を見分ける方法についても言及した。

#### ⑥北区・六郷北小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう  
日 時 1月29日(水) 9:45~10:30  
場 所 多目的ホール  
対象学年 1・2年生 合同2クラス50名  
講 師 (学芸員)中村暁子  
スタッフ (ボランティア)11名  
授業内容

作品をよく見ることを目標として3つのゲームを行い、楽しみながら美術鑑賞をするという体験をした。また、グループで学習することにより、他の人と話し合い、やりとりをしながら鑑賞することも学んだ。

- ①挨拶、アートカードについての説明

- ②イントロ

カードを全部表にして広げ、カードの部分拡大図を投影して、どの部分かをあてるゲームを行った。

- ③マッチングゲーム

カードを全部裏にして広げ、順番に2枚めくって共通点を言うゲームを行った。

- ④プレゼントしたいこの1枚

カードを全部表にして広げ、ひとりずつカードを選び、誰にどうしてプレゼントしたいかを言うゲームを行った。その後、教室に飾りたい1枚をグループごとに選んだ。

#### ⑦緑区・太子小学校

プログラム名 美術から異文化を知ろう!  
日 時 1月30日(木)10:45~11:30  
場 所 クラス教室  
対象学年 6年生 2クラス63名  
講 師 (学芸員)山田諭  
授業内容

フリーダ・カーロの《死の仮面を破った少女》の作品図版を提示して、児童に何が描いてあるか画

面全体から細部に到るまで観察して、発表させた後、とくにメキシコにおける「骸骨」の(イメージに託された風習や死生観の)意味をはじめとして、日本とメキシコとの交流関係について、さまざまな資料や作品図版(スライド)を使って解説した。

#### (4)就業・職業・職場体験及び職場訪問受け入れ

1. 対象 中学校・高等学校 生徒
2. 内容 **【体験】**総務課、学芸課の業務内容を知るとともに、清掃、警備、案内監視、施設管理等の業務内容を知り体験する。  
**【訪問】**館内施設の見学をするとともに、疑問点についてインタビューを行い美術館に関する理解を深める。

#### 3. 実績

実施日	内容	学校名	学年	人数	備考
25. 7 .23~24	体験	名古屋市立名古屋商業高等学校	2年	4人	
25.11.15	体験	みよし市立北中学校	2年	2人	
25.12. 4	体験	名古屋市立宝神中学校	2年	3人	
26. 1 .15	体験	名古屋市立新郊中学校	2年	1人	
26. 1 .28	体験	名古屋市立はとり中学校	2年	3人	
26. 1 .29	体験	名古屋市立守山中学校	2年	4人	
26. 1 .31	体験	大府市立大府北中学校	2年	1人	
26. 2 . 5	体験	名古屋市立天白中学校	2年	2人	
26. 3 .12	体験	名古屋学院名古屋中学校	2年	4人	
25. 8 . 2	訪問	愛知県立名古屋西高等学校	1年	6人	
25. 8 .25	訪問	平山学園清林館高等学校	1年	3人	
25.11. 8	訪問	名城大学附属高等学校	1年	5人	
26. 1 .15	訪問	名古屋市立富士中学校	1年	4人	
26. 1 .15	訪問	名古屋市立千種台中学校	1年	5人	
26. 1 .17	訪問	名古屋市立桜丘中学校	1年	5人	
26. 1 .31	訪問	名古屋市立志賀中学校	1年	5人	
26. 2 . 4	訪問	名古屋市立円上中学校	1年	5人	
26. 2 . 7	訪問	名古屋市立植田中学校	1年	6人	

#### (5)教員対象の講座

##### ①名古屋市教育センター研修「名古屋市美術館における鑑賞教育講座」

名古屋市教育センターからの依頼により、名古屋市立の小・中・高・養護学校を対象とする研修講座を開催した。美術館の基本的な活動と、児童・生徒を対象にした美術鑑賞の実践例を紹介した。当館が提供している常設展のギャラリートークやアートカードを用いた鑑賞学習の一例を実際に体験してもらい、美術館の活用法を具体的に知ってもらう機会とした。

- 日 時** 7月30日(火)13:00~16:00  
**場 所** 名古屋市美術館 講堂および常設展示室  
**参加者数** 65名  
**講 師** (学芸係長)山田諭、(学芸員)中村暁子、清家三智  
**スタッフ** ボランティア8名



今年度は8期のボランティアを募集し、74名の応募者の中から選考、養成講座を経て27名を美術館ボランティアとして登録することとなった。

一方で、ボランティアの活動年限を決めたことにより、1期から3期までの17名が活動の最終年となった。今日まで安定した教育普及活動を行うことができたのは、1期から3期の支援無くしてはありえなかったであろう、改めて感謝したい。

今後は、常時100名前後のメンバーで安定した活動運営をしていくことになるが、一人当たりの活動機会の確保が課題となるため、新たな活動内容も視野に入れながら活動の幅を広げていくことが望まれる。

活動としては、常設展でのギャラリートークや学校休業日の教育プログラムにおける美術鑑賞体験支援、通常の出前授業の他にも毎年恒例となっているボランティアまつりを開催した。ボランティア有志による計画のもと、1点トークや建物・彫刻ガイド、アートカードで遊ぼうなどを実施し、来館いただいた約1000人のお客様に美術鑑賞を楽しんでいただくとともに、ボランティア活動についても周知する機会とすることができた。

## (1)ボランティア登録者(2013年4月～2014年3月)

第1期:大竹希至子、山田泰子 計2名

第2期:木村千代子、黒柳美紀子、桜井泉、藤栄朋子、ほか、計5名

第3期:今瀬弘美、小田光枝、神谷多恵子、北村圭衣子、榊原民恵、竹山満里子、中嶋厚、三島きょう子 ほか、計9名

第4期:赤尾和江、天野恵子、荒川千華、井戸田早苗、加藤浩司、加藤真由美、久保田典子、栗木恵子、坂田典子、杉浦直子、田内徳隆、土田晶子、寺西春美、中野芳枝、安井まり子、山田由紀子 ほか、計18名

第5期:赤尾和子、北川恭子、佐藤紀子、鈴木律子、瀧川友子、永田高志、野口健弘、原田直美、引地順子、平山千枝、藤井万巳、村松敦子、森和美、山田優子 ほか、計19名

第6期:伊藤えつ子、太田久美、荻野知恵子、梶田清美、加藤枝里香、坂井千恵、中村俊雄、林梨加 ほか、計13名

第7期:池本せい子、井田紀子、井上静夫、今井康夫、遠藤明子、太田美奈、大林千春、小澤智子、加藤たみ枝、加藤久子、末原みとせ、宗宮有紀子、蔦森敦子、中尾隆博、長尾理香、中川和彦、平尾真実、本多悠子、三浦有美、三島悠、道倉明子、安江あおい、安原栄里、横井文代、横山野美、吉川優実 ほか、計28名

## (2)定例会

定例会は原則として毎月第2土曜日の午前中に開催した。ボランティア間の連絡・調整の他に以下のような研修を行った。

日時	時間	内容	講師
4月13日	午前10時～12時	係活動の話し合い	ボランティア
5月11日	午前10時～12時	抽象の展開—モダンアートのチャートを起点として	竹葉学芸員
6月8日	午前10時～12時	芸術は評価しなければならない!?	山田学芸係長
7月13日	午前10時～12時	名品コレクション展Ⅱについて	角田学芸員
8月3日	午前10時～12時	ギャラリートークの参考になる他館の作品についてⅡ	保崎学芸員
9月14日	午後10時～12時	パリの作家を支えた画商について	深谷副館長
10月12日	午前10時～12時	名品コレクション展Ⅲについて	清家学芸員／保崎学芸員
11月9日	午前10時～12時	フリーダ・カーロについて	中村学芸員
12月14日	午前10時～12時	BODY DISTANCEをめぐって	久野利博氏(美術作家)
1月11日	午前10時～12時	親子で楽しむアートの世界 遠まわりの旅について	笠木学芸員
2月8日	午前10時～12時	8期養成講座の内容について	清家学芸員
3月8日	午前10時～12時	名品コレクション展Ⅰについて	竹葉学芸員／保崎学芸員



### (3)ガイド活動

#### ①常設展ギャラリートーク

休館日を除く毎日(午前11時～・午後2時～)、一般を対象とした約1時間のガイドツアーをボランティア2名が担当した。

活動日数 274日間(「名古屋まつり」を除く)

延べ参加者数 1,895名

#### ②特別展ギャラリートーク

特別展ギャラリートークは、ボランティアに参加の希望を募り、展覧会ごとに担当を分けて行う。ギャラリートークの開催日、開始時間、方法などは、担当ごとに選出するまとめ役を中心にした話し合いによって決定する。登録後2年を経過したボランティアのメンバーが活動している。

##### a) 名古屋市美術館開館25周年記念 上村松園展

開催日 4月23日、24日、25日、26日、5月8日、9日、10日、14日、15日、16日、17日、21日、22日、23日、24日(計15日)

時間等 火、水、木、金、  
10時00分～/13時00分～

担当 1期:1名、2期:2名、3期:2名、4期:2名、5期:2名、6期:2名 計11名  
2人が組となり、1日を担当。

方法 会場入口で参加者を募りグループを編成するツアー形式で、展覧会全体を約1時間ギャラリートークした。

参加数 延べ810人

##### b) はじめての美術 絵本原画の世界2013

開催日 6月21日、23日、25日、26日、28日、7月3日、5日、9日、10日、11日、12日、15日、17日、19日(計14日)

時間等 月(祝)、水、木、金、日  
10時30分～/13時30分～

担当 2期:1名、3期:1名、4期:5名、5期:2名、6期:2名 計11名  
2人が組となり、1日を担当。

方法 会場入口で参加者を募りグループを編成するツアー形式で、展覧会全体を約1時間ギャラリートークした。

参加数 延べ504人

##### c) あいちトリエンナーレ2013

開催日 8月17日、18日、22日、24日、25日、29日、31日、9月1日、5日、7日、8日、12日、15日、16日、19日、21日、22日、23日、26日、28日、29日、10月3日、5日、6日、10日、12日、13日、14日、17日、19日、20日、24日、26日、27日(計34日)

時間等 木、土、日、祝  
10時00分～/13時00分～

担当 1期:1名、2期:1名、3期:3名、4期:1名、5期:4名、6期:2名 計12名  
2人が組となり、1日を担当。

方法 会場入口で参加者を募りグループを編成するツアー形式で、展覧会全体を約45分ギャラリートークした。

参加数 延べ1,122人

##### d) ハイレッド・センター:直接行動の軌跡展

開催日 11月16日、19日、21日、22日、24日、27日、28日、12月1日、6日、7日、10日、13日、17日、20日、21日(計15日)

時間等 火、水、木、金、土、日  
10時30分～/13時30分～

担当 2期:1名、3期:2名、5期:5名、6期:2名 計10名  
2人が組となり、1日を担当。

方法 会場入口で参加者を募りグループを編成するツアー形式で、展覧会全体を約1時間ギャラリートークした。

参加数 延べ269人

##### e) 親子で楽しむアートの世界 遠まわりの旅展

開催日 2月19日、23日、26日、3月2日、5日、9日、12日、16日、19日、23日、26日、30日(計12日)

時間等 水、日、  
10時30分～/13時30分～

担当 2期:1名、3期:2名、5期:6名、6期:2名 計11名  
2人が組となり、1日を担当。

方法 会場入口で参加者を募りグループを編成するツアー形式で、展覧会全体を約1時間ギャラリートークした。

参加数 延べ398人

#### ③案内活動

総合案内・図書室案内を該当月の一定期間(定休日及び金曜日を除く)に、ボランティアが従事した。活動日一日につき4人(午前2人/午後2人)、延べ100人のボランティアが担当した。

〈活動日〉

月	日				月	日					
4	_____				10	19	20	23	24	25	26
						27					
5	29	30	31		11	_____					
6	1	2			12	_____					
7	19	20	21		1	_____					
8	28	29	30	31	2	_____					
9	1	15	16	21	22	23					
					3	_____					



ギャラリートーク

#### (4) サポート活動

##### ・資料

常設展の展示替ごとにギャラリートークの参考となる資料を選別して、ボランティアに配布したり、特別展等で使用した図書資料やコレクション解析学等解説会の記録を収集し、後に参照しやすいよう整理して保存するなど、資料の管理全般に携わった。

##### ・研修係

美術館外の研修として、「日本画家が描いた西洋風景－滞欧作を中心として－」展(11/16、稲沢市荻須記念美術館)の見学を企画・実施した。また、館内での学習の機会として、連続講座「絵画を読む」、「ギャラリー・トークのスキルアップ勉強会」、美術関連の映画・ドキュメンタリーの上映会、ボランティア定例会での特別レクチャーとして美術作家の久野利博氏を講師に招き、講演会「自作について」(12/14、美術館 2 F 講堂)を企画・実施した。

##### ・団体対応係

学校等の団体鑑賞を円滑に行うための取りまとめ他、係のメンバーによる話し合いを行い、より充実したガイドトークのための検討を行った。

##### ・体験活動係

年 6 回開催される「キッズの日」各プログラムの実施に際し、スタッフの募集や実施までの連絡調整、教材の下準備、当日の運営サポート、実施後のボランティア定例会での活動報告を主に受け持った。当日の円滑な事業運営や鑑賞対象となる作品への理解を深めるため事前打ち合わせを随時行うとともに、実施後の記録や意見交換を通じてプログラムの改訂にも取り組んだ。

#### (5) その他

名古屋まつり特別企画 まるっと一日わくわくアート2013

日 時 10月20日(日)

場 所 常設展示室 1・2 屋外美術館敷地内など

スタッフ ボランティア数十名

#### 内 容

(学芸員)竹葉丈、保崎裕徳

常設展が無料開放日となる同日にあわせて、特別なイベントで来館者に美術ないし美術館により親しんでいただくと同時に、ボランティアによるギャラリートークをより多くの人に知っていただくという趣旨の企画。今年は 5 種類のイベントをおよそ 1 時間おきに実施し、来館者がいつの時間に入場しても、なんらかのイベントに参加できるように配慮した。各イベントとも事前申込不要の自由参加で、詳細は以下のとおり。なお、通常 11 時と 2 時に実施しているツアー形式による常設展ギャラリートークは実施していない。

- ① 1 点トーク…ボランティアのリードにより、来館者が 1 つの作品をじっくり鑑賞するギャラリートーク。1 人のボランティアが 1 作品につき約 15 分のトークを担当し、次の作品を別のボランティアが引き継ぐ形で、1 時間に計 4 作品のトークを行った。10:30～、12:30～、15:30～の 3 回開催。
- ② 建物・彫刻ガイド…美術館内、館外を巡りながら、黒川紀章設計の特徴ある箇所を紹介していくとともに、館の内外に設置されている彫刻についても紹介するガイドツアー。ただし当日の天気が雨だったため、館内のみツアーとなった。所要時間約 45 分で 2 班に分かれて行った。14:30～の 1 回開催。
- ③ アートカードで遊ぼう…所蔵作品が印刷されたカードをつかったゲームを体験し、常設展の作品に親しんでもらうとともに、作品をきっかけとしたコミュニケーションを家族あるいはボランティアと楽しむ企画。来館者の希望に応じて随時、約 15 分間のゲームを地下 1 階キッズコーナーで実施した。
- ④ わくわくアート Q&A…地下 1 階ロビーに、常設展の作品に関する 6 つのクイズを立て看板で掲示した。解答は各ボランティアに尋ねるという方法をとった。
- ⑤ ジェームズ・タレル《テレフォンブース》の特別展示… 1 人用の電話ボックス型の空間に滞在し、7 分間の光の明滅・色彩の変化を体験する作品を地下 1 階に設置。10 分ごとの予約制で来館者に体験していただいた。また、作品付近にモニタを設置し、タレルについての解説 VTR も上映した。

また、上記のイベント以外に、「監視補助」としてボランティアの協力を得た。無料開放とギャラリートーク開催にともなう当日の会場の混雑を考慮し、人の流れが滞る箇所や、人が触れそうになる危険のある作品の周辺にボランティアが立つことにより、適切な声掛けでトラブルを未然に防いだ。



アートカードで遊ぼう



レセプション



建物・彫刻ガイド

### 3 協力会

名古屋市美術館協力は、美術館の活動等に協力するとともに、市民の美術に関する知識と教養の向上を図るために必要な事業を行い、芸術文化の振興発展に寄与することを目的に活動を行っています。

＜会員数＞		＜新規・継続別＞ (平成26年3月31日現在)		
		新規	継続	計
特別会員	7名	特別会員 0名	7名	7名
一般会員	117名	一般会員 6名	111名	117名
ユース会員	4名	ユース会員 2名	2名	4名
家族会員	34名	家族会員 12名	22名	34名
(計)	162名	(計)	20名	142名

#### 平成25年度美術館協力会事業報告

- 1 展覧会ギャラリー・トークの開催
  - 「上村松園展」  
平成25年4月28日(日) 77名参加
  - 「はじめての美術 絵本原画の世界2013」  
平成25年6月23日(日) 37名参加
  - 「あいちトリエンナーレ2013」  
平成25年8月11日(日) 50名参加
  - 「ハイレッドセンター展」  
平成25年11月10日(日) 38名参加
  - 「親子で楽しむアートの世界 遠まわりの旅展」  
平成26年2月16日(日) 28名参加
- 2 美術館見学ツアーの実施
  - 春 平成25年5月26日(日) 36名参加  
静岡県立美術館、静岡市美術館、資生堂アートハウス
  - 春 平成25年6月30日(日) 48名参加  
兵庫県立美術館、横尾忠則現代美術館、ヨドコウ迎賓館
  - 秋 平成25年9月28日(土)～29日(日) 39名参加  
21世紀美術館、石川県立美術館、高岡市立近代美術館  
瑞龍寺、富山県立近代美術館
- 3 作家を囲む会
  - 「水野誠司・初美」を囲む会  
平成25年7月7日(日) 14名参加
  - 「眞島直子」を囲む会  
平成26年2月22日(土) 28名参加
  - 「親子で楽しむアートの世界 遠まわりの旅展」作家を囲む会  
平成26年3月15日(土) 16名参加
- 4 美術館鑑賞ミニツアー
  - 「中国 王朝の至宝展」名古屋市博物館  
平成25年4月27日(土) 17名参加
  - 「プーシキン展」愛知県美術館  
平成25年5月19日(日) 31名参加
  - 「フランス・ベーコン展」豊田市美術館  
平成25年6月16日(日) 27名参加
  - 「名古屋城本丸御殿展」名古屋城  
平成25年7月27日(土) 22名参加
  - 「ユーモアと飛躍展」岡崎市美術博物館  
平成25年10月14日(月) 16名参加

- 「反重力展」豊田市美術館  
平成25年11月16日(土) 11名参加
  - 「北斎展」名古屋ボストン美術館  
平成26年1月26日(日) 33名参加
  - 「点描の画家たち展」愛知県美術館  
平成26年3月21日(金) 28名参加
- 5 ブログの運用  
平成25年度ブログ閲覧状況  
〔投稿47件、閲覧数12,357回、ユーザー数(延)2,923名〕
  - 6 オリジナル・カレンダーの作成及び配付  
「吉岡弘昭」氏のオリジナル版画 《250》部
  - 7 催しものの案内  
特別展、常設展、講演会などの情報提供、年間展覧会案内、アートペーパーの配付
  - 8 作品の寄贈  
オリジナル・カレンダー1件1点  
平成26年1月20日の資料収集審査委員会で決定
  - 9 総会の開催  
平成25年6月23日(日) 20名参加(委任状58名)

### 4 図書室

図書室の資料の充実を図るとともに、そのときどきの特別展に即した参考資料やビデオ番組を揃えるなどして、利用者の多様なニーズに応えるよう努力しています。

#### 図書資料分類別冊数一覧 (平成26年3月31日現在)

分類	和書	洋書
辞書、辞典、年鑑、図書目録	571(2)	223(0)
画集、美術全集、所蔵品目録	7,254(110)	3,476(25)
展覧会図録	12,094(417)	1,478(17)
研究書、技法書	332(18)	13(1)
年報、紀要、報告書	6,464(246)	23(1)
美術雑誌	12,561(60)	2,524(30)
その他(美術教科書、一般図書)	2,544(48)	1,094(1)
小計	41,820(901)	8,831(75)
総計	50,651(976)冊	

( )は今年度の受け入れ図書冊数

#### 入室者数 13,119名

4月	469名	10月	292名
5月	2,243名	11月	222名
6月	2,464名	12月	225名
7月	4,971名	1月	167名
8月	253名	2月	542名
9月	218名	3月	1,053名



### 出版・制作物一覧

#### 美術館ニュース「アートペーパー」No.93、94、95

美術館の活動状況や美術・文化についての様々な情報を広報するものです。

A 2 版、部数：各5,000部

#### 特集記事

93号：プロパガンダの届け先—ベン・シャーンの《リディツェ》再び—

94号：メキシコを愛した写真家—ティナ・モドッティ

95号：メキシコ・ルネサンス、もうひとつの美術運動—1930年メキシコのカレンダーを巡って



#### 年報

平成24年度の美術館活動全般の詳細な記録です。

A 4 版、58頁、PDFデータとして当館ホームページに掲載



#### 年間案内

平成26年度一年間の展覧会の情報を告知するものです。

A 4 版変形、部数：20,000部



#### 所蔵作品解説シートの増し刷り

常設展で無料配布している所蔵作品についての解説シートです。

B 6 版、モノクロ、一部改訂、増刷7種、部数：24,000部



#### ボランティア募集要項

名古屋市美術館のボランティア（8期）を募集するための募集要項です。

A 4 版、モノクロ、部数：7,000部



平成25年度は、購入2点、受贈53点、受託2点の合計57点の作品を新たに受け入れました。

まず購入ではティナ・モドッティの写真作品2点を収集しました。モドッティの写真作品についてはこれまでに19点の作品を収蔵していましたが、今回の2点を加えることによってより充実したコレクションとなりました。《キリストの鞭打ち》は貴重なヴィンテージ・プリントであり、また《カラー》はモドッティの重要なモチーフを撮影したものであり、いずれも回顧展などで取り上げられる代表作です。近年ますます評価を高めているモドッティの真価を理解するうえでもまたとない収集となりました。

受贈については、先ずメキシコの現代美術を代表するレニューロ4兄弟の多彩な作品がコレクションに加わりました。メキシコ・ルネサンスは当館の収集方針の柱の一つですが、先年寄贈を受けた版画集に加えて今回の絵画作品8点の寄贈によって、メキシコの現代美術の広がりを紹介することが可能になりました。

近年郷土作家の作品の貴重な寄贈が増えていますが、地元洋画界の代表的な作家の一人、鬼頭鍋三郎の貴重な作品8点がまとまってご遺族より寄贈されました。初期から戦後の充実期まで時代的に幅広いため様式の変遷が分かりやすく、また画題も様々で鬼頭鍋三郎の全体像を知るうえで貴重な受贈となりました。同じく地元の個人コレクターの遺族からは、大沼映夫や設楽知昭、田中阿喜良など、9作家による14点の多彩で貴重な作品がまとめて寄贈されました。フィンランドで写真を学び、名古屋を拠点に活動を展開している

水野誠司・初美夫妻の写真を紹介する常設企画展を開催しましたが、その関係から18点の写真作品を寄贈していただくことになりました。写真表現を積極的に紹介している当館にとってコレクションをさらに充実させることができました。

地元に近いゆかりを持ち、また日本を代表する洋画家でもある島田章三・鮎子ご夫妻からは3点の作品のご寄贈をいただきました。章三氏についてはすでに2点の作品を収集しておりましたが、今回制作時期の異なる作品をさらに1点加えることができ、作風の変遷をより明確にすることができました。鮎子氏の作品は今回初めての収集となりましたが、ごく初期の瑞々しい作風のもと、独自の様式を確立した時期のもと2点が新たにコレクションに加わりました。

現在世界的な活躍を展開している島袋道浩が最初の個展を開催したのは名古屋市美術館で、20年以上前の1993年のことでした。地域の住民との交流から生まれる島袋の作品は、独特の視点と味わいを備えています。今回寄贈を受けたのは茨城県での113日間にわたる活動を記録したビデオや写真パネル一式で、島袋の作風をよく伝えてくれるものです。

美術館の協力会では、2006年以来地元作家に依頼してオリジナル・カレンダーを制作していますが、今年は版画家として40年以上のキャリアを持つ吉岡弘昭が制作を担当しました。詩情あふれる画面の中に、ユーモアと哀感、そして若干の風刺を込めた作者の近年の作風が表現された素晴らしいカレンダーが新たに加わることになりました。

## (1)購入



1. ティナ・モドッティ(1896-1942)  
Tina MODOTTI  
《キリストの鞭打ち》  
The Flagellation of Christ  
1925-27年  
ヴィンテージ・ゼラチン・シルバー・プリント  
gelatine silver print on paper  
24.7×19.5cm



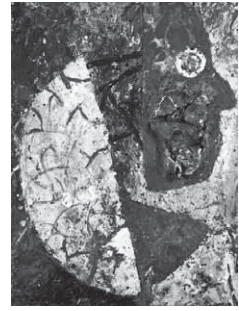
2. ティナ・モドッティ(1896-1942)  
Tina MODOTTI  
《カラー》  
Calla Lily  
1924-26年  
モダン・プラチナ・パラジウム・プリント  
platinum Palladium print on paper  
27.5×22.1cm

## (2)受贈

### ①資料



1. 眞島直子(1944- )  
MAJIMA, Naoko  
《密林にて》  
In the Dense Forest  
2009年  
鉛筆・アルシュ紙  
pencil on arche paper  
114.0×300.0cm



2. アルベルト・カストロ・レニエーロ(1951- )  
Alberto CASTRO LENERO  
《美学的な想念》  
Aesthetic Idea  
1992年  
エンコースティック・石膏コラージュ・板  
encaustic and plaster collage on board  
80.0×60.0cm



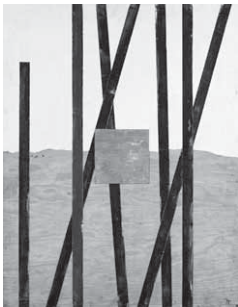
3. アルベルト・カストロ・レニエーロ(1951- )  
Alberto CASTRO LENERO  
《分裂症》  
Schizophrenia  
1993年  
エンコースティック・鉄・板  
encaustic and iron on board  
80.0×60.0cm



4. ホセ・カストロ・レニエーロ(1953- )  
Jose CASTRO LENERO  
《黒い雲》  
Black Cloud  
1993年  
アクリル・紙  
acrylic on paper  
80.0×80.0cm



5. ホセ・カストロ・レニエーロ(1953- )  
Jose CASTRO LENERO  
《ハリケーン》  
Hurricane  
1993年  
アクリル・紙  
acrylic on paper  
80.0×80.0cm



6. フランシスコ・カストロ・レニエーロ(1954- )  
Francisco CASTRO LENERO  
《幻影》  
Phantom  
1993年頃  
アクリル・板  
acrylic on board  
90.0×70.0cm



7. フランシスコ・カストロ・レニエーロ(1954- )  
Francisco CASTRO LENERO  
《3月の証》  
Sign of March  
1993年頃  
アクリル・板  
acrylic on board  
90.0×70.0cm



8. ミゲル・カストロ・レニエーロ(1956- )  
Miguel CASTRO LENERO  
《砂漠のなかの街》  
Town in desert  
1992年  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
150.0×100.0cm

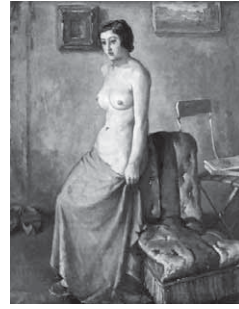




9. ミゲル・カストロ・レニエーロ(1956- )  
Miguel CASTRO LENERO  
《前兆》  
Omen  
1993年  
水彩・紙  
watercolor on paper  
54.0×74.5cm



10. 鬼頭鍋三郎(1899-1982)  
KITO, Nabesaburo  
《赤子》  
Baby  
1933年  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
98.0×146.5cm



11. 鬼頭鍋三郎(1899-1982)  
KITO, Nabesaburo  
《裸婦》  
Nude  
1934年  
油彩・キャンバス  
oil on canvas  
116.5×91.0cm



12. 鬼頭鍋三郎(1899-1982)  
KITO, Nabesaburo  
《裁縫》  
Sewing  
1939年  
油彩・キャンバス  
oil on canvas  
116.5×90.8cm



13. 鬼頭鍋三郎(1899-1982)  
KITO, Nabesaburo  
《黒帽子の女》  
Woman with Black Hat  
1940年  
油彩・キャンバス  
oil on canvas  
116.5×91.0cm



14. 鬼頭鍋三郎(1899-1982)  
KITO, Nabesaburo  
《[[勤労働員の女]]》  
Working Woman in the Munitions Factory  
1943年頃  
油彩・キャンバス  
oil on canvas  
91.0×73.0cm



15. 鬼頭鍋三郎(1899-1982)  
KITO, Nabesaburo  
《[[読書する女]]》  
Reading Woman  
1949年頃  
油彩・キャンバス  
oil on canvas  
91.0×72.8cm



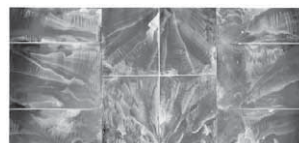
16. 鬼頭鍋三郎(1899-1982)  
KITO, Nabesaburo  
《黄衣の婦人》  
Woman in Yellow  
1958年頃  
油彩・キャンバス  
oil on canvas  
91.5×73.0cm



17. 鬼頭鍋三郎(1899-1982)  
KITO, Nabesaburo  
《[[和服の女]]》  
Woman with Kimono  
1960年頃  
油彩・キャンバス  
oil on canvas  
116.5×91.0cm



18. 大沼映夫(1933- )  
OHNUMA, Teruo  
《ギターを持つ女》  
Woman with Guitar  
1980年  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
116.7×80.3cm



19. 加納光於(1933- )  
KANO, Mitsuo  
《ドロイングⅢ》  
Drawing III  
1982年  
油彩・紙  
oil on paper  
39.0×84.8cm



20. 設楽知昭(1955- )  
SHITARA, Tomoaki  
《鏡よりモノタイプ》  
Monotype from the Mirror  
1988年  
カーボン、リンシード油・雁皮紙  
carbon and linseed oil on Japanese paper  
176.0×97.0cm





21. 設楽知昭(1955- )  
SHITARA, Tomoaki  
《鏡よりモノタイプ》  
Monotype from the Mirror  
1988年  
カーボン、リンシード油・雁皮紙  
carbon and linseed oil on Japanese paper  
176.0×97.0cm



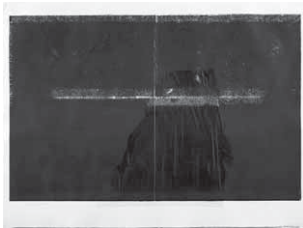
22. 設楽知昭(1955- )  
SHITARA, Tomoaki  
《鏡よりモノタイプ》  
Monotype from the Mirror  
1988年  
カーボン、リンシード油・雁皮紙  
carbon and linseed oil on Japanese paper  
176.0×97.0cm



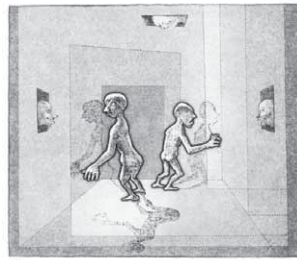
23. 田中阿喜良(1918-1982)  
TANAKA, Akira  
《ポルトガルの漁夫(ナザレ)》  
Fisherman in Portugal(Nazare)  
1969年  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
60.0×80.8cm



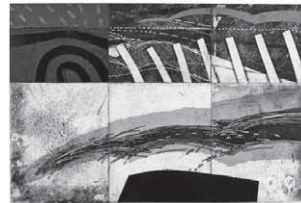
24. 中林忠良(1937- )  
NAKABAYASHI, Tadayoshi  
《転位'89—地—三重の地》  
Transposition '89—Ground—Triple Ground  
1989年  
銅版・紙、コラージュ  
etching and aquatint on paper, collage  
57.5×85.5(イメージ:52.5×76.0)cm



25. 中林忠良(1937- )  
NAKABAYASHI, Tadayoshi  
《転位'89—地—二重の地》  
Transposition '89—Ground—Double Ground  
1989年  
銅版・紙、コラージュ  
etching and aquatint on paper, collage  
107.0×79.0(イメージ:102.5×65.0)cm



26. 浜田知明(1917- )  
HAMADA, Chimei  
《見られている…。》  
Being Seen  
1982年  
エッチング、アクアチント・アルシュ紙  
etching and aquatint on arche paper  
20.0×30.0cm



27. 林孝彦(1961- )  
HAYASHI, Takahiko  
《ドローイング・パーチメント》  
Drawing Parchment  
1988年  
エッチング・羊皮紙  
etching on parchment  
66.2×99.5cm



28. 櫃田伸也(1941- )  
HITSUDA, Nobuya  
《棚の上のコレクション》  
Collection on the Shelf  
1977年  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
60.8×91.3cm



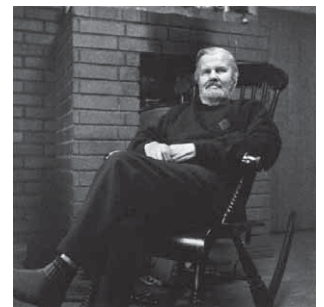
29. 櫃田伸也(1941- )  
HITSUDA, Nobuya  
《卓上の小さな花》  
Small Flower on the Desk  
1982年  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
73.0×60.5cm



30. 山中春雄(1919-1962)  
YAMANAKA, Haruo  
《二人》  
Pair  
1957年  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
90.9×65.2cm



31. 山中春雄(1919-1962)  
YAMANAKA, Haruo  
《浮遊》  
Floating  
1958年  
鉛筆・紙  
pencil on paper  
48.5×27.0cm



32. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《ヘイッキ・ロンカイネン》  
Heikki Ronkainen  
2013年  
パラジウム・プリント  
palladium print on paper  
14.5×14.5cm



33. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《椅子、トペリウス通り》  
Chair, Topeliuksenkatu  
2013年  
パラジウム・プリント  
palladium print on paper  
11.4×11.4cm



34. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《リータ・パイメンサロ》  
Riita Paimensalo  
2013年  
パラジウム・プリント  
palladium print on paper  
14.5×14.5cm



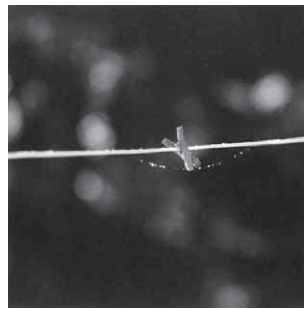
35. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《木、ハメーンティエ158番地》  
Tree, Hämeentie 158  
2013年  
パラジウム・プリント  
palladium print on paper  
15.2×15.2cm



36. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《ヤーッコ・ルースカ》  
Jaakko Ruuska  
2013年  
パラジウム・プリント  
palladium print on paper  
14.5×14.5cm



37. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《北の方へ》  
Northbound  
2013年  
パラジウム・プリント  
palladium print on paper  
15.2×22.9cm



38. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《洗濯ばさみ》  
wooden pinch  
2013年  
パラジウム・プリント  
palladium print on paper  
14.2×14.2cm



39. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《暗森 #18》  
Forest obscura #18  
2013年  
パラジウム・プリント  
palladium print on paper  
13.7×20.6cm



40. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《氷 #2》  
Ice #2  
2013年  
パラジウム・プリント  
palladium print on paper  
22.9×15.2cm



41. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《浮光》  
Hikari flux  
2013年  
パラジウム・プリント  
palladium print on paper  
14.2×14.2cm



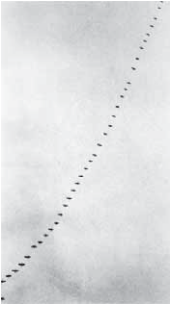
42. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《雪の丘》  
Snowy hill  
2013年  
パラジウム・プリント  
palladium print on paper  
17.8×17.8cm



43. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《葦雪》  
Kaislat lumi  
2011年  
パラジウム・プリント  
palladium print on paper  
15.2×10.2cm



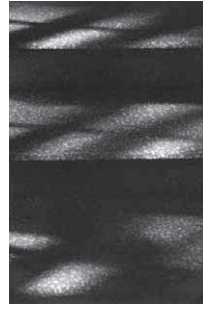
44. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《葦風》  
Kaislat tuuli  
2013年  
パラジウム・プリント  
palladium print on paper  
14.2×21.3cm



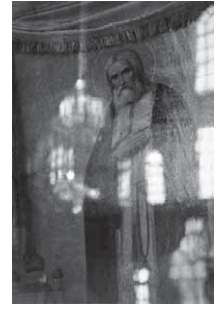
45. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《春の上空へ》  
Up from spring sky  
2011年  
プラチナ・パラジウム・プリント  
platinum palladium print on paper  
18.0×10.2cm



46. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《イースターの光 #2》  
Pääsiäisen valo #2  
2013年  
パラジウム・プリント  
palladium print on paper  
22.9×15.2cm



47. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《イースターの光 #3》  
Pääsiäisen valo #3  
2013年  
パラジウム・プリント  
palladium print on paper  
21.3×14.2cm



48. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《イースターの光 #4》  
Pääsiäisen valo #4  
2013年  
パラジウム・プリント  
palladium print on paper  
19.1×12.7cm



49. 水野誠司・初美(1968- /1970- )  
MIZUNO, Seiji・Hatsumi  
《バルティック海》  
Baltic sea  
2013年  
パラジウム・プリント  
palladium print on paper  
16.5×16.5cm



50. 島田章三(1933- )  
SHIMADA, Shozo  
《鳩の丘》  
On the hill with a dove  
1977-78年頃  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
90.9×116.7cm



51. 田中(島田)鮎子(1934- )  
TANAKA(SHIMADA), Ayuko  
《赤い室内》  
Red room  
1962年  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
145.5×112.1cm



52. 島田鮎子(1934- )  
SHIMADA, Ayuko  
《日差しはもう春》  
Feel like in a spring sunshine  
1998年  
油彩・キャンヴァス  
oil on canvas  
162.1×130.3cm



53. 島袋道浩(1969- )  
SHIMABUKU, Michihiro  
《鹿をさがして》  
IN SEARCH OF DEER  
1997/2000年  
写真パネル8枚、ビデオ、オリジナル本  
inkjet print on paper, 8 panels, video, original book  
75.0×100.2cm



54. 島袋道浩(1969- )  
SHIMABUKU, Michihiro  
《鹿をさがして》  
IN SEARCH OF DEER  
1997/2000年  
写真パネル8枚、ビデオ、オリジナル本  
inkjet print on paper, 8 panels, video, original book  
75.4×100.2cm



55. 島袋道浩(1969- )  
SHIMABUKU, Michihiro  
《鹿をさがして》  
IN SEARCH OF DEER  
1997/2000年  
写真パネル8枚、ビデオ、オリジナル本  
inkjet print on paper, 8 panels, video, original book  
75.0×100.1cm



56. 島袋道浩(1969- )  
SHIMABUKU, Michihiro  
《鹿をさがして》  
IN SEARCH OF DEER  
1997/2000年  
写真パネル8枚、ビデオ、オリジナル本  
inkjet print on paper, 8 panels, video, original book  
75.1×100.4cm

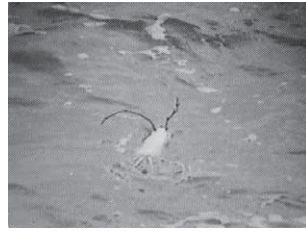




57. 島袋道浩(1969- )  
SHIMABUKU, Michihiro  
《鹿をさがして》  
IN SEARCH OF DEER  
1997/2000年  
写真パネル8枚、ビデオ、オリジナル本  
inkjet print on paper, 8  
panels, video, original book  
100.1×75.1cm



58. 島袋道浩(1969- )  
SHIMABUKU, Michihiro  
《鹿をさがして》  
IN SEARCH OF DEER  
1997/2000年  
写真パネル8枚、ビデオ、オリジナル本  
inkjet print on paper, 8  
panels, video, original book  
74.5×100.3cm

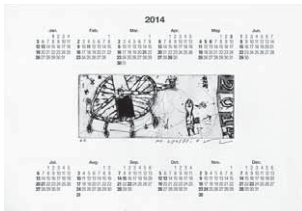


59. 島袋道浩(1969- )  
SHIMABUKU, Michihiro  
《鹿をさがして》  
IN SEARCH OF DEER  
1997/2000年  
写真パネル8枚、ビデオ、オリジナル本  
inkjet print on paper, 8  
panels, video, original book  
74.8×100.0cm



60. 島袋道浩(1969- )  
SHIMABUKU, Michihiro  
《鹿をさがして》  
IN SEARCH OF DEER  
1997/2000年  
写真パネル8枚、ビデオ、オリジナル本  
inkjet print on paper, 8  
panels, video, original book  
75.1×100.2cm

## ②特別資料



1. 吉岡弘昭(1942- )  
YOSHIOKA, Hiroaki  
名古屋市美術館協力会2014カレン  
ダー《三角公園・2014》  
Triangle park 2014  
2013年  
ドライポイント、ソフトグラウンド・エッチング、手彩  
色・紙  
drypoint, soft ground etching and hand  
color on paper  
(イメージ:8.5×21.6)cm



### (3)資料収集状況一覧

年度別									
年度	分類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総計
58年度		0	26	2	0		1		29
59年度		3	32	50	1		0		86
60年度		4	25	67	20		2		118
61年度		5	23	33	6		1		68
62年度		12	38	0	360		15		425
63年度		0	15	8	13		6		42
元年度		3	7	2	275		1		288
2年度		7	4	2	17		1		31
3年度		1	3	2	122		0		128
4年度		2	10	15	126		3		156
5年度		0	13	4	0		3		20
6年度		0	7	0	1		2		10
7年度		1	27	2	195		0		225
8年度		0	7	0	2		3		12
9年度		0	2	0	17		2		21
10年度		2	8	0	21		0		31
11年度		2	10	0	0		1		13
12年度		0	9	0	0		0		9
13年度		0	8	0	※ -83	※ 83	1	0	9
14年度		1	0	0	167	0	0	0	168
15年度		0	1	0	0	8	2	0	11
16年度		0	0	8	0	0	2	0	10
17年度		0	2	10	0	4	0	0	16
18年度		0	9	0	0	0	0	0	9
19年度		0	2	0	0	0	1	0	3
20年度		0	1	0	0	0	1	0	2
21年度		0	1	7	3	0	0	0	11
22年度		0	1	0	0	0	0	0	1
23年度		0	1	0	0	0	0	0	1
24年度		0	0	0	0	0	2	0	2
25年度		0	0	0	0	2	0	0	2
購入総計		43	292	212	1,263	(2) 97	50	0	(2) 1,957
保管転換		16	41	31	35	3	3	1	130
受贈		76	(21) 286	(5) 867	(8) 355	(19) 409	23	(1) 1,561	(54) 3,577
総計		135	(21) 619	(5) 1,110	(8) 1,653	(21) 509	76	(1) 1,562	(56) 5,664

### 収集方針別

分類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総計
エコール・ド・パリ	—	29	3	478	0	2	1	513
メキシコ・ルネサンス	—	(5) 34	(3) 38	381	(2) 54	4	0	(10) 511
現代の美術	—	(2) 137	(1) 79	(4) 280	(1) 12	61	9	(8) 578
郷土の美術	135	(14) 419	(1) 990	(4) 514	(18) 443	9	(1) 1,552	(38) 4,062
総計	135	(21) 619	(5) 1,110	(8) 1,653	(21) 509	76	(1) 1,562	(56) 5,664

( )内の数字は平成25年度収集分

## 岡本太郎 《明日の神話》

1968年 油彩・キャンヴァス(3パネル) 132.7×728.9cm

平成12年度の収蔵時に画面表裏の全体に及ぶ保存修復処置を行ったが、それから10余年を経過し既存の亀裂箇所の一部に再び絵具層の浮き上がりや剥落が認められるようになった。そのため平成12年度と同様の処置方法によって絵具層の浮き上がりや剥落を固着し、剥落

箇所には充填整形と補彩を施した。また3パネルの右側パネルは木枠の反りが他の2パネルよりも大きかったため、木枠を新調し、再張り込みを行って、保存状態を改善した。この処置にともなって既存の額縁を調整改良した。

## メキシコ革命100年・独立200年記念『独立と革命』(2010年)

1件54点のうち19点

対象作品一覧

セット番号	作家名	作品名	技法	寸法〔イメージ(紙)〕
1	デミアン・フロレス	祖国	リトグラフ	50.0×60.0(50.0×60.0)cm
3	マリオ・ベネデッティ	責務	金属／グラビア印刷	57.5×112.5(69.0×124.5)cm
4	ホセ・カストロ・レニエーロ	テラス	リトグラフ	90.4×122.0(94.5×124.5)cm
6	ペエル・アンデルソン	どんな石にも可能性がある	リトグラフ	50.0×60.0(50.0×60.0)cm
8	ラファエル・ルイス・モレーノ	競技者	リトグラフ	60.1×50.0(60.1×50.0)cm
9	フランシスコ・カストロ・レニエーロ	ゲーム	リトグラフ	50.0×42.2(60.0×50.0)cm
10	ピエル・ブラグリオ	無題(メキシコ地図)	リトグラフ	50.0×60.0(50.0×60.0)cm
17	シスコ・ヒメネス	六つの前立腺	アルグラフィア(アルミニウム版にリトグラフ)	44.4×39.0(59.8×49.9)cm
18	ボリス・ビスキン	我が独立50周年記念	グラビア印刷、デジタル写真	46.5×39.0(59.5×49.8)cm
19	マリサ・ボウロサ	ガナファトと2010年のガナファト(2点1組)	アルグラフィア(アルミニウム版にリトグラフ)	各60.0×50.0(60.0×50.0)cm
21	ルベン・マヤ	宇宙の二面性	エッチング、アクアチント	46.0×39.0(60.0×50.0)cm
25	アドルフ・メヒアック	祖国	木版	98.0×74.0(120.0×100.0)cm
28	ピラル・ボルデス	使者	エッチング、アクアチント	69.5×98.5(88.0×119.5)cm
39	モリヤマ・テルミ	変化と不安	エッチング、アクアチント、エングレーヴィング	44.5×30.0(60.0×40.8)cm
40	アンドレス・バスケス・グロリア	無題	エッチング、アクアチント	37.0×49.0(49.8×59.9)cm
42	ルイス・ロベス・ローザ	歪曲した形	リトグラフ	39.0×26.7(60.0×50.0)cm
51	アレハンドロ・サンチャゴ	自由への夢	エッチング、アクアチント	50.0×60.0(50.0×60.0)cm
52	ルイス・リカウルデ	自由な心	セリグラフ	58.5×48.2(58.5×48.2)cm

19点(19番は2点1組)いずれも中性紙ブックマット装として取扱い状態を改善し展示可能な状態とするともに保存状態を改善した。また、

展示に使用できるようUVカットアクリル付き白木汎用額(121.5×100cm)1点を制作した。

収蔵資料貸出 (平成25年度)

作家名	作品名	貸出期間・貸出先	展覧会名・展示期間
岡鹿之助	魚	H.25.3.9～H.25.6.23 石橋財団ブリヂストン美術館	「日本人のバリエーション 1900-1945 石橋コレクションを中心に」 H.25.3.23～H.25.6.9
山本惺右	ある人間の思想の発展…霧と寝室と 題不詳 (砂浜の裸婦)	H.25.3.10～H.25.9.10 ポール・Getty美術館	「日本近代の境界：濱谷浩と山本惺右の写真展」 H.25.3.26～H.25.8.25
熊谷守一	ハケ岳 秋 山椿 冬の夜	H.25.5.11～H.25.7.13 豊島区立熊谷守一美術館	「熊谷守一美術館開館28周年記念展」 H.25.5.24～H.25.6.30
藤田嗣治	自画像	H.25.6.17～H.25.11.3 熊本県立美術館 北九州市立美術館	「レオナルド・フジタとバリエーション 1913-1931展」 H.25.7.2～H.25.8.25 H.25.8.31～H.25.10.20
イサム・ノグチ コンスタンティン・ブランクーシ ホセ・クレメンテ・オロスコ ダビッド・アルファロ・シケイロス ディエゴ・リベラ ホセ・グアダルーペ・ボサダ マヌエル・アルバレス・ブラボ	死すべきもの うぶごえ 家族 修道士とインディオ クアウテモックの肖像 大地の果実 野外学校 版画(39枚)よりNo.1 版画(39枚)よりNo.2 フリーダ・カーロ ディエゴ・リベラ ホセ・クレメンテ・オロスコ ダビッド・アルファロ・シケイロス	H.25.7.6～H.25.10.28 公益財団法人ひろしま美術館	「アート・アーチ・ひろしま 2013 イサム・ノグチ～その創造の源流」展 H.25.7.20～H.25.10.14
前田青邨	宿場	H.25.7.7～H.25.10.28 広島県立美術館	「アート・アーチ・ひろしま 2013 ピース・ミーツ・アート！」展 H.25.7.20～H.25.10.14
田淵俊夫	緑溢れる頃	H.25.7.16～H.26.6.30 北海道立近代美術館 日本橋高島屋 名古屋松坂屋美術館 京都文化博物館 広島県立美術館	「星星會—日本画の伝統と未来へ—」展 H.25.9.6～H.25.9.23 H.26.1.2～H.26.1.13 H.26.2.8～H.26.3.2 H.26.3.11～H.26.3.23 H.26.4.17～H.26.5.25
加納光於	(受託美術品) 流れの中にA (受託美術品) 星・反芻学① (受託美術品) 星・反芻学③	H.25.7.18～H.25.12.20 神奈川県立近代美術館・鎌倉	「加納光於 色身—未だ視ぬ波頭よ 2013」展 H.25.9.14～H.25.12.1
三岸好太郎	花の静物(百合)	H.25.8.27～H.26.2.5 北海道立三岸好太郎美術館 北海道立函館美術館	「生誕110年 三岸好太郎展」 H.25.9.14～H.25.11.17 H.25.11.23～H.26.1.19
東郷青児	帽子を被った男(歩く女)	H.25.9.20～H.25.11.17 鹿児島市立美術館	「東郷青児展」 H.25.10.3～H.25.11.4
中谷泰	モク 流田	H.25.9.28～H.25.12.22 三重県立美術館	「没後20年 中谷泰展」 H.25.10.12～H.25.12.8
三岸好太郎	構図(暖炉のある静物) 海と射光	H.25.10.12～H.26.1.19 兵庫県立美術館	「昭和モダン 絵画と文学1926-1936展」 H.25.11.2～H.25.12.29
村山槐多	房州風景 信州の農家	H.25.11.1～H.26.2.28 横須賀美術館 小杉放菴記念日光美術館	「山崎省三・村山槐多とその時代展」 H.25.11.16～H.25.12.23 H.26.1.1～H.26.2.16
木村莊八 伊藤敏博	りんご 山上風景 自我像	H.25.12.16～H.26.4.19 豊田市美術館	「愛知のリアリズム—宮脇晴の周辺展」 H.26.1.7～H.26.4.6
加藤延三	破れたる壺と四個のりんご 自画像 橋のある風景(駄知西灶橋) 少女像(松枝)		
大澤鉦一郎	茄子と椒 宮脇少年像 老人 りんご三つ 裸婦 田舎の少年 城のある風景		

水野正一	静物(茶碗と林檎3個) 風景(或る草道) 少女 郊外風景 自画像		
山田睦三郎	題不詳(静物) 題不詳(一本の木) 題不詳(自画像) 村娘 刈入れの頃の風景		
萬代比佐志 藤井外喜雄	少女像 裸婦 自画像		
宮脇晴	夜の自画像 卓上の林檎 母の像 ぶどう 草屋越冬図		
赤瀬川原平	あいまいな海11(座骨内の眼球) あいまいな海10 あいまいな海9 あいまいな海4 あいまいな海1 あいまいな海8 個展「あいまいな海について」案内状(模型千円札Ⅰ) 模型千円札Ⅱ 模型千円札Ⅲ 模型千円札Ⅳ 復讐の形態学(殺す前に相手をよく見る) 事実か方法か1・2 押収品・模型千円札Ⅱパネル作品 不在の部屋 押収品・模型千円札Ⅲ梱包作品(かばん) 押収品・模型千円札Ⅲ梱包作品(ボトル) 押収品・模型千円札Ⅲ梱包作品(かなづち) 大日本零円札 「大日本零円札」と両替された現金の瓶詰 『形象』第〈7〉号(1963年、形象社) 『形象』第〈8〉号(1963年、形象社) 『美術手帖』1963年10月増刊号(美術出版社) 『機関』第〈10〉号(1966年、形象社)	H.26.2.4～H.26.3.27 渋谷区立松濤美術館	「ハイレッド・センター：直接行動の軌跡」展 H.26.2.11～H.26.3.23
[資料]			
岡鹿之助 マルク・シャガール	魚 寓話より「キツネとコウノトリ」 寓話より「酔っ払いとその奥さん」 寓話より「キツネとぶどう」 寓話より「白鳥と料理人」 寓話より「乳しぼりの女と牛乳壺」 寓話より「主人の食事を顎にぶらさげたイヌ」 寓話より「おどけ者と魚」 寓話より「羊飼いとヒツジの群れ」	H.26.2.15～H.26.5.15 三重県立美術館	「ア・ターブル！—ごはんだよ！食をめぐる美の饗宴—展」 H.26.3.1～H.26.5.6



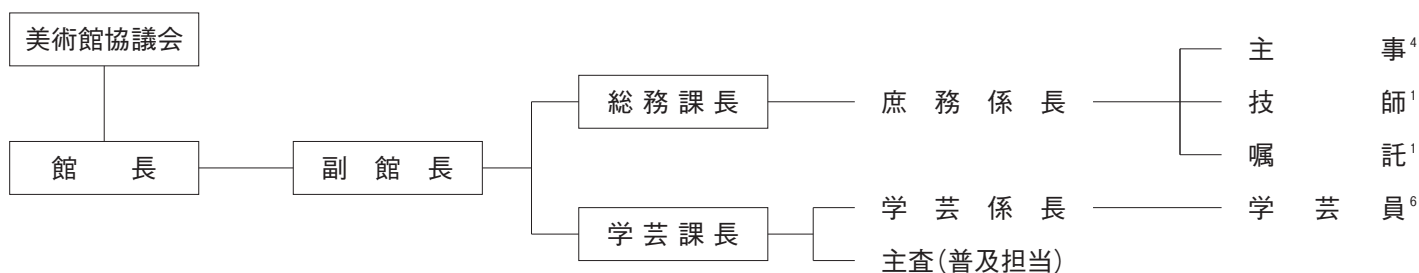
# 入館者一覽 VISITOR

展覧会名	開催期間	有 料								無 料		入場者 総 数	
		個 人				団 体				有 料 合 計	無 料 招待等		
		一般	高大生	小中生	小 計	一般	高大生	小中生	小 計				
常 設 展	平成25年 4月2日(火)～ 平成26年 3月30日(日)	7,992	1,500	無料 (9,904)	9,492	215	266	無料 (1,491)	481	9,973	119,141	129,114	
特 別 展	上村松園展	平成25年 4月20日(土)～ 平成25年 6月2日(日)	83,471	1,488	732	85,691	204	47	0	251	85,942	14,659	100,601
	はじめての美術 絵本原画の世界 2013展	平成25年 6月15日(土)～ 平成25年 7月21日(日)	20,701	2,121	3,823	26,645	117	527	230	874	27,519	8,268	35,787
	あいち トリエンナーレ 2013	平成25年 8月10日(土)～ 平成25年 10月27日(日)	46,274	5,807	無料 (5,181)	52,081	50	40	0	90	52,171	23,105	75,276
	ハイレッド・ センター展	平成25年 11月9日(土)～ 平成25年 12月23日(月)	2,465	527	85	3,077	21	40	0	61	3,138	1,681	4,819
	親子で楽しむ アートの世界展	平成26年 2月15日(土)～ 平成26年 3月30日(日)	6,238	720	無料 (6,790)	6,958	42	0	0	42	7,000	9,129	16,129
	特別展小計		159,149	10,663	4,640	174,452	434	654	230	1,318	175,770	56,842	232,612
合 計		167,141	12,163	4,640	183,944	649	920	230	1,799	185,743	175,983	361,726	
											教育普及事業参加者 (展示室内参加者を除く)	24,702	
											総 計	386,428	

## 〈年度別入館者数等〉

区 分		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	累 計	
展 覧 会	常 設 展	開催日数	284日	280日	223日	275日	7,450日
		入場者数	138,985人	74,130人	69,656人	129,114人	3,624,344人
	特 別 展	開催日数	209日	238日	185日	217日	5,522日
		入場者数	277,317人	218,576人	190,562人	232,612人	7,313,612人
入 場 者 小 計		416,302人	292,706人	260,218人	361,726人	10,937,956人	
教育普及事業参加者		46,783人	17,166人	54,039人	24,702人	624,083人	
入 館 者 合 計		463,085人	309,872人	314,257人	386,428人	11,562,039人	

## 1 組織図



## 2 美術館協議会

### (1)名古屋市美術館協議会委員

名古屋市立幅下小学校長	佐藤 佳子	愛知県私学協会副会長	大谷 恩
愛知県立旭丘高等学校長	川村 則夫	名古屋市立向陽高等学校長	津金 倫明
公益財団法人名古屋市文化振興事業団副理事長	田賀 泰孝	名古屋市社会教育委員	野村由美子
名古屋市地域女性団体連絡協議会理事	遠藤 恒子	名古屋市立小中学校PTA協議会理事	宗形 礼子
公募委員	陶山 朋子	愛知県立芸術大学准教授	小西 信之
名古屋商工会議所文化・観光委員会副委員長	滝 茂夫	愛知県美術館長	村田 眞宏
名古屋造形大学教授	江本菜穂子	名古屋大学文学研究科准教授	加藤 靖恵

### (2)名古屋市美術館協議会開催状況

日 時	場 所	協 議 題
第1回定例会 平成25年9月10日(火) 15:00~17:00	美術館講堂	○会長及び副会長の選出について ○平成24年度事業実施結果について ○平成25年度事業実施状況について
第2回定例会 平成26年2月17日(月) 15:00~17:00	美術館講堂	○平成25年度事業実施状況について ○平成26年度事業計画案について

## 3 職 員

館 長	松永 恒裕	学芸課長	深谷 克典
副館長	深谷 克典	学芸係長	山田 諭
総務課長	瀬音 秀幸	主査(普及)	石田みゆき
庶務係長	橘 弘子	学 芸 員	角田美奈子
副係長	福満 和美		竹葉 丈
主 事	岸 正子		中村 暁子
	塚本 精蔵		笠木日南子
	都築 佳孝		清家 三智
技 師	小川 和秀		保崎 裕徳
嘱 託	林 知万夫		

## 4 運営予算

総予算費	内 訳	
208,178千円	特別展関係費	75,365千円
	常設展運営費	19,678千円
	資料関係費	5,925千円
	教育普及事業費	9,076千円
	調査研究費	401千円
	管 理 費	97,733千円

平成25年度名古屋市美術館年報

発行日

平成26年 8 月

編集・発行

名古屋市美術館

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号  
(芸術と科学の杜・白川公園内)

TEL 052-212-0001

FAX 052-212-0005

# 名古屋市美術館

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号

Tel.052-212-0001 Fax.052-212-0005